

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 1	理念・目的
------	-------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
111	① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容  達成：大学の建学の精神「学問を通じての人間形成」を柱に「建学の理念」（資料111-1）が設定され、これに準じ獨協医科大学大学院学則（資料111-2）や看護学研究科の教育理念と目標（資料111-3）、研究科が育成する人材が設定されている。 令和3年度から新たな論文コース（DP・CP）、専門看護師（CNS）コース（DP・CP）（資料111-4、5）により、教育の到達目的がより明確になった。	A
	○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性  達成：大学の理念・目的（資料111-1）に則り、看護学研究科の教育理念と目標（資料111-3）が設定され、これに準じカリキュラム・ポリシー（資料111-4）及びディプロマ・ポリシー（資料111-5）が設定されている。 令和3年度、カリキュラムツリー（資料111-6）及びカリキュラムマップ（資料111-7）が制定され、関連性を示す指標として明確になった。 また、大学の理念・目的と学部・研究科の目的及び4Pの連関性については、毎年、ステークホルダーのひとつである地方自治体（壬生町）に意見を伺っている。	A
112	② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示  達成：大学院看護学研究科の目的は、大学院学則第2条の2第2項（資料111-2）に「看護学に関する学術の理論及び応用を教授・研究して看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とす	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
111	①大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容  達成：大学の建学の精神「学問を通じての人間形成」を柱に「建学の理念」（資料111-1）が設定され、これに準じ獨協医科大学大学院学則（資料111-2）や看護学研究科の教育理念と目標（資料111-3）、研究科が育成する人材が設定されている。 対応：令和2年度の教学委員会で検討し、DP・CPをコース毎に改正する。 論文コース（DP・CP）、専門看護師（CNS）コース（DP・CP）（資料111-4、5）本件は、大学院研究科教授会（令和2年11月18日開催）で承認され、令和3年度から施行する。（資料111-6）	A
	○大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性  達成：大学の理念・目的（資料111-1）に則り、看護学研究科の教育理念と目標（資料111-3）が設定され、これに準じカリキュラム・ポリシー（資料111-4）及びディプロマ・ポリシー（資料111-5）が設定されている。 対応：令和2年度の教学委員会で検討し、関連性を示す指標としてカリキュラムツリー（資料111-7）、カリキュラムマップ（資料111-8）を作成した。 本件は、大学院研究科教授会（令和3年3月17日開催）で承認され、令和3年度から施行する。（資料111-9）	A
112	②大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。 ○学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示  達成：大学院看護学研究科の目的は、大学院学則第2条の2第2項（資料111-2）に「看護学に関する学術の理論及び応用を教授・研究して看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とす	A

	る。」と規定しており、その目的を達成するための大学院看護学研究科カリキュラム・ポリシー（資料 111-4）及び大学院看護学研究科ディプロマ・ポリシー（資料 111-5）が設定されている。			る。」と規定しており、その目的を達成するための大学院看護学研究科カリキュラム・ポリシー（資料 111-4）及び大学院看護学研究科ディプロマ・ポリシー（資料 111-5）が設定されている。		
	○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表  達成：大学院看護学研究科の教育理念・目的・教育目標は、「大学院看護学研究科シラバス」（資料 112-1）及び看護研究科募集要項（資料 112-2）に明記し、学生及び教職員に周知するとともに、獨協医科大学ホームページにおいて学内外に周知・公開している。また、新入生オリエンテーション時においても周知を図り理解を深めている。	A		○教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表  達成：大学院看護学研究科の教育理念・目的・教育目標は、「大学院看護学研究科シラバス」（資料 112-1）及び看護研究科募集要項（資料 112-2）に明記し、学生及び教職員に周知するとともに、獨協医科大学ホームページにおいて学内外に周知・公開している。また、新入生オリエンテーション時においても周知を図り理解を深めている。	A	
113	③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。			113	③大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。	
	○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定 ・認証評価の結果等を踏まえた中・長期の計画等の策定 達成：・日本看護学教育評価機構（JABNE）の受審に向けた取り組み（教育目標の見直し及び環境整備等）・・・令和 4 年度（2022 年度）受審予定。 ・令和 2 年度から専門看護師コース「精神看護学」の新設が承認された。 対応：中・長期的な研究科を見据えた埼玉医療センターサテライト及び博士課程の設置を踏まえて、令和 4 年度に中・長期計画を策定している。 今後の入学者数を踏まえつつ、埼玉医療センターサテライト及び博士課程の設置について、教学委員会、運営委員会、教授会で情報を分析しつつ検討していく。 新たな計画に大学院看護学研究科博士課程の設置があり、令和 3 年度に博士課程準備室を設置し、博士課程の申請に向け検討を重ねている。	A			○将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策の設定 達成：・日本看護学教育評価機構（JABNE）の受審に向けた取り組み（教育目標の見直し及び環境整備等）・・・令和 4 年度（2022 年度）受審予定。 ・令和 2 年度から専門看護師コース「精神看護学」の新設が承認された。 未達：中・長期的な研究科を見据えた埼玉医療センターサテライト及び博士課程の設置など、具体的な検討が十分になされていない。 対応：今後の入学者数を踏まえつつ、埼玉医療センターサテライト及び博士課程の設置について、令和 2 年度以降にその必要性も踏まえ教学委員会、運営委員会、教授会で情報を分析しつつ検討していく。 新たな計画に大学院看護学研究科博士課程の設置があり、令和 3 年度は博士課程準備室を設置し、サテライトキャンパスを含め検討する。（資料 113-1）	B

2. 根拠資料（名称）

2021（令和3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
111	1	建学の精神・理念 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/philosophy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/philosophy.html</a>
	2	獨協医科大学大学院学則 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html</a>
	3	研究科理念 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/philosophy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/philosophy.html</a>
	4	カリキュラム・ポリシー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html</a>
	5	ディプロマ・ポリシー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/diploma-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/diploma-policy.html</a>
	6	カリキュラムツリー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html</a>
	7	カリキュラムマップ（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html</a>
112	1	看護学研究科シラバス <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2020/html5.html#page=1">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2020/html5.html#page=1</a>
	2	看護学研究科募集要項 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/exam/recruitment.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/exam/recruitment.html</a>

2020（令和2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
111	1	建学の精神・理念 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/philosophy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/philosophy.html</a>
	2	獨協医科大学大学院学則 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html</a>
	3	研究科理念・目的 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/philosophy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/philosophy.html</a>
	4	カリキュラム・ポリシー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html</a>
	5	ディプロマ・ポリシー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/diploma-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/diploma-policy.html</a>
	6	大学院研究科教授会議事録（R2年11月開催）
	7	カリキュラムツリー（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html</a>
	8	カリキュラムマップ（論文コース、CNSコース） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/map_tree.html</a>
	9	大学院研究科教授会議事録（R3年3月開催）
112	1	令和2年度看護学研究科シラバス <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2020/html5.html#page=1">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2020/html5.html#page=1</a>
	2	令和3年度看護学研究科募集要項
113	1	大学院看護学研究科博士課程設置について

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 3	教育研究組織
------	--------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
311	① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ○大学の理念・目的と学部（学科又は課程）構成及び研究科（研究科又は専攻）構成との適合性  達成：大学の理念・目的に照らし、学部・研究科等の組織体制は適切に構築されている。 ・大学の目的は「前文省略・・・社会的に信頼される医師及び保健師・助産師・看護師を育成することを目的とし、・・・（以下省略）」であり、大学院の目的は「前文省略・・・医学及び看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とする。」と定めている。これらの理念・目的に照らし、本学は【医学部】【看護学部】【医学研究科】【看護学研究科】【助産学専攻科】が組織されており、組織は適切に構築されている。（資料 311-1）（資料 311-2（既出 111-2））	A
	○大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性  達成：大学の理念・目的に照らし、附置研究所、センター等の組織体制は適切に構築されている。 ・大学、大学院の理念・目的は上述の通りであり学部・研究科等が組織構成されているが、その他の支援組織として【先端医科学統合研究施設（実験動物センター、研究連携・支援センター、先端医科学研究センター）】【放射線管理センター】【教育支援センター】【国際協力・支援センター】【情報基盤センター】【SDセンター】【教学IR推進室】【図書館】【保健センター】【献体事務室】【地域共創看護教育センター】等を組織しており、大学の理念・目的を達成するための教育・支援体制は組織されて、適切に構築されている。（資料 311-3） ・附属施設として、【獨協医科大学病院】【獨協医科大学埼玉医療センター】【獨協医科大学日光医療センター】を有し、学生の教育病院として重要な役割を担っており、大学の理念・目的に照らし、組織体制は適切に構築されている。	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
311	①大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ○大学の理念・目的と学部（学科または課程）構成及び研究科（研究科または専攻）構成との適合性  達成：大学の理念・目的に照らし、学部・研究科等の組織体制は適切に構築されている。 ・大学の目的は「前文省略・・・社会的に信頼される医師及び保健師・助産師・看護師を育成することを目的とし、・・・以下省略」であり、大学院の目的は「前文省略・・・医学及び看護学の進展に寄与するとともに、高度の研究的思考能力を備えた研究者の養成を目的とする。」と定めている。これらの理念・目的に照らし、本学は【医学部】【看護学部】【医学研究科】【看護学研究科】【助産学専攻科】が組織されており、組織は適切に構築されている。（資料 311-1）（資料 311-2（既出 111-2））	A
	○大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性  達成：大学の理念・目的に照らし、附置研究所、センター等の組織体制は適切に構築されている。 ・大学、大学院の理念・目的は上述の通りであり学部・研究科等が組織構成されているが、その他の支援組織として【先端医科学統合研究施設（実験動物センター、研究連携・支援センター、先端医科学研究センター）】【教育支援センター】【地域医療教育センター】【国際協力支援センター】【情報基盤センター】【RIセンター】【SDセンター】【教学IR推進室】【図書館】【保健センター】【献体事務室】【地域共創看護教育センター】等を組織しており、大学の理念・目的を達成するための教育・支援体制は組織されており、適切に構築されている。（資料 311-3） ・附属施設として、【獨協医科大学病院】【獨協医科大学埼玉医療センター】【獨協医科大学日光医療センター】を有し、学生の教育病院として重要な役割を担っており、大学の理念・目的に照らし、組織体制は適切に構築されている。	A

	<p>○教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮</p> <p>達成：学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等を配慮した教育研究組織を構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療の充実という社会的要請に対し【地域医療教育センター】を設置し、地域医療教育及び地域自治体との連携を構築している。(資料 311-4)</li> <li>・大学を取り巻く国際的環境等への配慮として【国際協力支援センター】を設置し、活動している。(資料 311-5)</li> <li>・広く看護の領域を基盤とし、現実的で複合的な地域の健康関連問題などを生きた学習のテーマとし、21 世紀の新たな健康問題への解決策を地域と大学がともに創造し、ともに学生を育てていくことを目的に【地域共創看護教育センター】を設置し、活動している。(資料 311-6)</li> </ul>	A
312	<p>② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく教育研究組織の構成の定期的な点検・評価</p> <p>達成：・コンプライアンスの観点から、内部監査室及び不正防止計画推進室を設置し、教育研究組織が健全に機能しているかについて、定期的チェックが行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究施設の適切性については、各学部・研究科の教授会をはじめ、附属施設の諸会議において随時点検・評価が行われている。</li> </ul>	A
	<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>達成：各学部・研究科の教授会をはじめ、附属施設の諸会議において随時点検・評価が行われた事項について、学長諮問会議での審議を経て、学長が組織改編や新設などの教育研究組織の在り方を最終決定している。</p>	A

	<p>○教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮</p> <p>達成：学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等を配慮した教育研究組織を構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療の充実という社会的要請に対し【地域医療教育センター】を設置し、地域医療教育及び地域自治体との連携を構築している。(資料 311-4)</li> <li>・大学を取り巻く国際的環境等への配慮として【国際協力支援センター】を設置し、活動している。(資料 311-5)</li> <li>・広く看護の領域を基盤とし、現実的で複合的な地域の健康関連問題などを生きた学習のテーマとし、21 世紀の新たな健康問題への解決策を地域と大学がともに創造し、ともに学生を育てていくことを目的に【地域共創看護教育センター】を設置し、活動している。(資料 311-6)</li> </ul>	A
312	<p>②教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価</p> <p>達成：・コンプライアンスの観点から、内部監査室及び不正防止計画推進室を設置し、教育研究組織が健全に機能しているかについて、定期的チェックが行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究施設の適切性については、各学部・研究科の教授会をはじめ、附属施設の諸会議において随時点検・評価が行われている。</li> </ul>	A
	<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>達成：各学部・研究科の教授会をはじめ、附属施設の諸会議において随時点検・評価が行われた事項について、学長諮問会議での審議を経て、学長が組織改編や新設などの教育研究組織の在り方を最終決定している。</p>	A

2. 根拠資料（名称）

2021（令和3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
311	1	獨協医科大学学則 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html</a>
	2	獨協医科大学大学院学則（既出 111-2）
	3	獨協医科大学組織規程
311	4	獨協医科大学地域医療教育センター規程
	5	獨協医科大学国際協力支援センター規程
	6	獨協医科大学地域共創看護教育センター規程

2020（令和2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
311	1	獨協医科大学学則 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/rules.html</a>
311	2	獨協医科大学大学院学則（既出 111-2） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/files/dmu/info/00388-018(2).pdf">https://www.dokkyomed.ac.jp/files/dmu/info/00388-018(2).pdf</a>
311	3	獨協医科大学組織規程
311	4	獨協医科大学地域医療教育センター規程
311	5	獨協医科大学国際協力支援センター規程
311	6	獨協医科大学地域共創看護教育センター規程

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 4 教育課程・学習成果

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
411	<p>① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。</p> <p>○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表</p> <p>達成：・看護学研究科の目的・理念に基づき、論文コース、専門看護師（CNS）コース毎にディプロマ・ポリシー（資料411-1（既出111-5））が定められている。</p> <p>・学位授与方針は、シラバス（資料411-2（既出112-1））、学生募集要項（資料411-3（既出112-2））にて明示し、ホームページを用いて広く公表している。大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われている。令和3年度に論文コース、専門看護師（CNS）コースごとにDPおよびCPを改正した。</p>	A
412	<p>② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。</p> <p>○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表</p> <p>・教育課程の体系、教育内容</p> <p>・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等</p> <p>達成：・看護学研究科における教育課程の体系、授業科目区分、授業形態は、論文コース、専門看護師（CNS）コース毎にカリキュラム・ポリシー（資料412-1（既出111-4））として定めている。</p> <p>なお、これらは、シラバス（資料411-2（既出112-1））、学生募集要項（資料411-3（既出112-2））に明示し、ホームページを用いて広く公表している。</p> <p>大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われている。令和3年度に論文コース、専門看護師（CNS）コ</p>	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
411	<p>①授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。</p> <p>○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定及び公表</p> <p>達成：・看護学研究科の目的・理念に基づき、論文コース、専門看護師（CNS）コース毎にディプロマ・ポリシー（資料411-1（既出111-5））が定められている。</p> <p>・学位授与方針は、シラバス（資料411-2（既出112-1））、学生募集要項（資料411-3（既出112-2））にて明示し、ホームページを用いて広く公表している。</p> <p>対応：令和2年度の大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われ、これまでのDP・CPをコース毎（論文コース、専門看護師（CNS）コース）に改正した。</p> <p>なお、本件は、大学院研究科教授会（令和2年11月18日開催）で承認され、令和3年度から施行される。（資料411-4（既出111-6））</p>	A
412	<p>② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。</p> <p>○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表</p> <p>・教育課程の体系、教育内容</p> <p>・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等</p> <p>達成：・看護学研究科における教育課程の体系、授業科目区分、授業形態は、論文コース、専門看護師（CNS）コース毎にカリキュラム・ポリシー（資料412-1（既出111-4））として定めている。</p> <p>なお、これらは、シラバス（資料411-2（既出112-1））、学生募集要項（資料411-3（既出112-2））に明示し、ホームページを用いて広く公表している。</p> <p>対応：令和2年度の大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われ、これまでのDP・CPをコース毎（論文コース、専門看</p>	A

	<p>ースごとに DP および CP を改正した。</p> <p>○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性</p> <p>達成：ディプロマ・ポリシーに基づきカリキュラム・ポリシーが定められ、それぞれのコースごとに共通科目・専門科目・研究科目が配置されており、適切に連関している。これらは、大学院看護学研究科教学委員会において、PDC A サイクルを踏まえ、定期的な点検が行われている。</p> <p>大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われている。令和3年度に論文コース、専門看護師（CNS）コースごとに DP および CP を改正した。</p> <p>教育課程の編成に関しては、毎年、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会にて検討・見直しを行っている。その上で、看護学研究科看護学研究科自己点検・評価委員会にて毎年、自己点検・評価が行われている。その結果は内部質保証推進委員会に提出され、内部質保証推進委員会の議を経て学長諮問会議および教学マネジメント委員会に上程される。</p>	A			<p>護師（CNS）コース）に改正した。</p> <p>なお、本件は、大学院研究科教授会（令和2年11月18日開催）で承認され、令和3年度から施行される。（資料411-4（既出111-6））</p> <p>○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性</p> <p>達成：ディプロマ・ポリシーに基づきカリキュラム・ポリシーが定められ、それぞれのコースごとに共通科目・専門科目・研究科目が配置されており、適切に連関している。これらは、大学院看護学研究科教学委員会において、PDC A サイクルを踏まえ、定期的な点検が行われている。</p> <p>対応：令和2年度の大学院看護学研究科教学委員会において「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「アドミッション・ポリシー」に関し、定期的に検討が行われ、これまでの DP・CP をコース毎（論文コース、専門看護師（CNS）コース）に改正した。</p> <p>なお、本件は、大学院研究科教授会（令和2年11月18日開催）で承認され、令和3年度から施行される。（資料411-4（既出111-6））</p>	A
	<p>③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>				<p>③教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
	<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮</li> <li>・単位制度の趣旨に沿った単位の設定</li> <li>・個々の授業科目の内容及び方法</li> <li>・授業科目の位置づけ（必修、選択等）</li> </ul>	A			<p>○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性</li> <li>・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮</li> <li>・単位制度の趣旨に沿った単位の設定</li> <li>・個々の授業科目の内容及び方法</li> <li>・授業科目の位置づけ（必修、選択等）</li> </ul>	A
413	<p>◎ICTを活用した授業の展開（双方向型授業の展開や自主学習支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程にふさわしい教育内容の設定</li> <li>＜学士課程＞</li> <li>・初年次教育、高大接続への配慮</li> <li>・教養教育と専門教育の適切な配置</li> <li>＜修士課程、博士課程＞</li> <li>・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等</li> <li>・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> <p>達成：教育課程の編成に関しては、毎年、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会にて検討・見直しを行っている。その上で、看護学研究科看護学研究科自己点検・評価委員会にて毎年、自己点検・評価が行われている。その結果は内部質保証推進委員会に提出され、内部質保証推進委員会の議を経て学長諮問会議および教学マネジメント委員会に上程される。</p>			413	<p>◎ICTを活用した授業の展開（双方向型授業の展開や自主学習支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程にふさわしい教育内容の設定</li> <li>（＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等＜専門職学位課程＞理論教育と実務教育の適切な配置等）</li> </ul> <p>達成：・カリキュラム・ポリシーに基づき、順次性、体系性を持ったカリキュラム構成を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースワークとしては主に1年次にそれぞれのコースで求められる知識・基礎的研究手法・各専門領域の基本概念や理論、最新の知見について講義、演習、実習を通して学修していく。また、それぞれの授業においては、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク等を用いながら主体的に学修できるように工夫している。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・ポリシーに基づき、順次性、体系性を持ったカリキュラム構成を設定している。</li> <li>・コースワークとしては主に1年次にそれぞれのコースで求められる知識・基礎的研究手法・各専門領域の基本概念や理論、最新の知見について講義、演習、実習を通して学修していく。また、それぞれの授業においては、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク等を用いながら主体的に学修できるように工夫している。</li> <li>・リサーチワークとして論文コースは「特別研究」2科目、専門看護師コースは「課題研究」1科目で構成している。「特別研究Ⅰ」では研究課題の焦点化、研究計画書の作成等を進め、「特別研究Ⅱ」で研究計画に沿って研究データの収集・分析を行い修士論文を作成する。「課題研究」ではコースワークで明確にした課題を研究課題とし研究計画書を作成し課題研究論文を作成する。それぞれにおいては複数指導体制の下指導を行っている。また、LMSによる学修支援を令和元年度より実施している。</li> </ul> <p>達成：令和2年度の大学看護学研究科教学委員会において、関連性を示す指標について検討を行い、令和3年度にカリキュラムツリー（資料413-1（既出111-7））、カリキュラムマップ（資料413-2（既出111-8））を作成した。これらは、ホームページを用いて広く公表している。</p>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチワークとして論文コースは「特別研究」2科目、専門看護師コースは「課題研究」1科目で構成している。「特別研究Ⅰ」では研究課題の焦点化、研究計画書の作成等を進め、「特別研究Ⅱ」で研究計画に沿って研究データの収集・分析を行い修士論文を作成する。「課題研究」ではコースワークで明確にした課題を研究課題とし研究計画書を作成し課題研究論文を作成する。それぞれにおいては複数指導体制の下指導を行っている。</li> <li>・LMSによる学習支援を令和元年度より実施している。</li> </ul> <p>対応：令和2年度の大学看護学研究科教学委員会において、関連性を示す指標について検討を行い、カリキュラムツリー（資料413-1（既出111-7））、カリキュラムマップ（資料413-2（既出111-8））を作成した。これらは、ホームページを用いて広く公表していく。</p> <p>本件は、大学院研究科教授会（令和3年3月17日開催）で承認され、令和3年度から施行する。（資料413-3（既出111-9））</p>	
<p>○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p> <p>達成：コースワーク・リサーチワークとして適切な科目を配置し、授業においても主体的に学修する手法を用いており、ディプロマ・ポリシーに沿った社会的、職業的自立を図るための能力を培う教育を行っている。これについてはアンケート調査で確認している。（資料413-3, 413-4）</p> <p>論文コース、CNSコースごとにDPおよびアセスメント・ポリシーが制定され、看護学研究科教学委員会がそれに基づき学修成果を測定・評価している。学修成果に係る自己点検・評価は、毎年、看護学研究科自己点検・評価委員会にて点検評価が行われ、内部質保証推進委員会に報告されている。</p>	A		<p>○学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p> <p>達成：コースワーク・リサーチワークとして適切な科目を配置し、授業においても主体的に学修する手法を用いており、ディプロマ・ポリシーに沿った社会的、職業的自立を図るための能力を培う教育を行っている。</p>	A
<p>④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p> <p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）</li> <li>・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）</li> <li>・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知</li> </ul> <p>授業内容の変更があった場合、科目ごとに学生に周知されている。</p> <p>シラバス内に変更があった場合は、電子シラバスの巻頭ページに改訂履歴を</p>	A		<p>④学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p> <p>○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）</li> <li>・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）</li> </ul>	A

<p>記載し学生に周知している。(資料 411-2 (既出 112-1))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 (教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等) シラバス内に「授業形態、科目概要、授業目的、到達目標、授業内容、授業外における学修・時間、評価方法、テキスト・参考書、履修上の注意、質問への対応」を明記し、周知と指導にあたっている。(資料 411-2 (既出 112-1))</li> </ul> <p>学修課題は、抽象的あるいは感想文で終わらないよう、具体的な内容を提示した。学生は提出後、自ら作成した課題を客観的に把握できるよう添削及び解説を行う時間を設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習の進捗と学生の理解度の確認</li> </ul> <p>看護学研究科中間発表会 (年 2 回) を開催し、発表、意見交換を通じて研究内容の向上に繋げている。「資料 414-1 【看護学研究科中間発表会】」</p> <p>また、授業において学生が行うプレゼンテーションとディスカッションでの発言内容、課題レポート等、および、授業評価アンケートおよび学習環境アンケートを通じ学生の学修状況・理解度を把握している。「資料 414-2 【学習環境アンケート】」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導</li> </ul> <p>各科目、到達目標を設定し主体的学修を指導している。</p> <p>学生に有職者が多いことを鑑み、オンライン、オンデマンドを組み合わせ、双方向性を確保しつつ、学修が遅延しないよう時間外に学修できる環境を確保している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示</li> </ul> <p>各科目、授業外における学修・時間をシラバスに明記し、自主学習の向上を図り、質問等は、オフィスアワーで対応している。</p> <p>授業時間以外にも質問を受け、研究に関する個別相談を行っている。学修課題は、提出物が過重にならないように字数制限を設けたり他科目との調整を図るなど配慮している。提出された課題は、担当教員が確認後、コメントを記載して返却 (フィードバック) している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり (教育の実施内容・状況の把握等)</li> </ul> <p>看護学研究科の教育の実施に当たり、毎年、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会にて検討・見直しを行っている。その上で、看護学研究科看護学研究科自己点検・評価委員会にて毎年、自己点検・評価が行われている。その結果は内部質保証推進委員会に提出され、内部質保証推進委員会の議を経て学長諮問会議および教学マネジメント委員会に上程される。</p> <p>&lt; 学士課程 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業形態に配慮した 1 授業あたりの学生数</li> <li>• 適切な履修指導の実施</li> </ul> <p>&lt; 修士課程、博士課程 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究指導計画 (研究指導の内容及び方法、年間スケジュール) の明示とそれ</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法</li> </ul> <p>&lt; 学士課程 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業形態に配慮した 1 授業あたりの学生数</li> <li>• 適切な履修指導の実施</li> </ul> <p>&lt; 修士課程、博士課程 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 研究指導計画 (研究指導の内容及び方法、年間スケジュール) の明示とそれに基づく研究指導の実施</li> </ul> <p>達成：・「大学院看護学研究科シラバス作成要項」に基づき、非常勤講師も含む看護学研究科全教員が共通の様式を用いてシラバスを作成し、授業を実施している。(資料 411-2 (既出 112-1))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 科目によりディスカッションやプレゼンテーション等を実施することをシラバスに明記しており、学生が主体的に参加できる授業を実施している。</li> <li>• 主指導教員は毎年度 5 月に「教員指導計画書」を作成し、提出している。8 月には計画の進捗状況を記載し、2 月末に最終的な進捗状況を記載し提出している。(資料 414-1-①、②、③)</li> <li>• 令和 2 年度に教学委員会にて自己点検評価結果を踏まえ、シラバス内の改善及び 3 ポリシーについて検討し、DP・CP を改正する。更に関連性を示す指標として、カリキュラムツリー (資料 413-1 (既出 111-7))、カリキュラムマップ (資料 413-2 (既出 111-8)) を作成した。今後、ホームページを用いて社会に公表する予定である。大学院看護学研究科教授会議事録 (資料 413-3 (既出 111-9))</li> </ul>
--	--	--	---

	<p>に基づく研究指導の実施</p> <p>達成：・「大学院看護学研究科シラバス作成要項」に基づき、非常勤講師も含む看護学研究科全教員が共通の様式を用いてシラバスを作成し、授業を実施している。(資料 411-2 (既出 112-1))、(資料 414-3-①_履修計画 (論文コース、専門看護師コース))、(資料 414-3-②_看護学研究科 (修士課程モデル))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目によりディスカッションやプレゼンテーション等を実施することをシラバスに明記しており、学生が主体的に参加できる授業を実施している。</li> <li>・主指導教員は毎年度5月に「教員指導計画書」を作成し、提出している。8月には計画の進捗状況を記載し、2月末に最終的な進捗状況を記載し提出している。(資料 414-4)</li> <li>・令和2年度に教学委員会にて自己点検評価結果を踏まえ、シラバス内の改善及び3ポリシーについて検討し、DP・CPを改正する。 更に関連性を示す指標として、カリキュラムツリー(資料 413-1 (既出 111-7))、カリキュラムマップ(資料 413-2 (既出 111-8))を作成し、ホームページを用いて社会に公表している。</li> </ul>			
415	<p>⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p> <p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位の適切な認定</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置</li> </ul> <p>シラバスに具体的な評価の基準とそれぞれの割合を明記し、学生に周知している。成績評価は、科目責任者から提出された評価を看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で審議し、その結果を踏まえ、学長が決定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業・修了要件の明示</li> <li>・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり</li> </ul> <p>教学マネジメント委員会においてアセスメント・ポリシーが制定され、看護学研究科はそれに基づき学修成果を測定・評価している。学修成果に係る自己点検・評価は、毎年、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会にて検討を行っている。その上で、看護学研究科看護学研究科自己点検・評価委員会にて毎年、自己点検・評価が行われている。その結果は内部質保証推進委員会に提出され、内部質保証推進委員会の議を経て学長諮問会議および教学マネジメント委員会に上程される。</p> <p>達成：・単位は、獨協医科大学大学院学則第17条に規定する成績の評価に基づき認定される。科目責任者から提出された成績評価の点数により看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で可否の判定が行われ、合格と認められると当該科目の単位取得が認定される。看護学研究科における</p>	A	<p>⑥ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p> <p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位制度の趣旨に基づく単位認定</li> <li>・既修得単位の適切な認定</li> <li>・成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置</li> </ul> <p>卒業・修了要件の明示</p> <p>達成：・単位は学則に規定する成績の評価に基づき認定される。科目責任者から提出された成績評価の点数により教学委員会及び教授会で可否の判定が行われ、合格と認められると当該科目の単位取得が認定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の大学院等で修得した単位については、修得した大学院等のシラバスと本学のシラバスを科目責任者が確認し、認定の可否について判断している。科目責任者からの報告に基づき、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で既修得単位としての可否について審議している。</li> <li>・成績評価は多種多様な評価方法を用いて行っている。それぞれの科目の評価方法はシラバス(資料 411-2 (既出 112-1))に明記しており、成績評価の客観性、厳格性を担保している。</li> <li>・修了要件は大学院学則(資料 415-1 (既出 111-2))に明示しているほか、シラバスに明示し学生、教職員に周知している。</li> <li>・令和2年度の教学委員会にて検討し、大学院看護学研究科における成績評価異議申し立てに関する規程(令和3年4月1日制定)を作成した。本件は、大学院研究科教授会(令和2年10月21日開催)で承認され学長諮問会議の議を経て承認された。(資料 415-2)</li> </ul>	A

<p>各授業科目の単位数は、獨協医科大学大学院学則第 15 条に基づき、1 単位の授業科目を教室内及び教室外を合わせて 30 時間 の学修を必要とする内容をもって構成し、計算するものとする。(資料 415-1(既出 111-2)_獨協医科大学大学院学則第 15 条、第 17 条)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の大学院等で修得した単位については、獨協医科大学大学院学則第 16 条に基づき、修得した大学院等のシラバスと本学のシラバスを科目責任者が確認し、認定の可否について判断している。科目責任者からの報告に基づき、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で既修得単位としての可否について審議している。</li> <li>成績評価は多種多様な評価方法を用いて行っている。それぞれの科目の評価方法はシラバス(資料 411-2(既出 112-1))に明記しており、成績評価の客観性、厳格性を担保している。</li> <li>修了要件は獨協医科大学大学院学則(資料 415-1(既出 111-2))に明示しているほか、シラバスに明示し学生、教職員に周知している。</li> <li>看護学研究科における成績評価異議申し立てに関して、令和 2 年度の看護学研究科教学委員会にて検討し、獨協医科大学大学院看護学研究科における成績評価異議申し立てに関する規程を令和 3 年度に制定している。(資料 411-2(既出 112-1) シラバス p403)</li> </ul>				
<p>◎GPAの活用</p>				
<p>◎学修成果等の可視化</p>				
<p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 修士論文・課題研究論文審査基準をシラバス内に明示し、全学生に周知している。これらは、獨協医科大学ホームページを用いて幅広く公表している。(資料 415-2「修士論文・課題研究論文審査基準(獨協医科大学ホームページ掲載)」)</li> <li>学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>適切な学位授与</li> <li>学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 学位授与に関しては、獨協医科大学学位規程第 4 条に規定されている。</li> </ul> <p>達成：・修士論文、課題研究論文それぞれの審査基準を設け、シラバス(資料 411-2(既出 112-1))に明示し学生に周知している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学位審査は、主査(指導教員ではない看護学研究科教授)と副査(看護学研究科教員、指導教員を含めても良い(修士論文は単著のため指導教員を含めても良い)) 2 名による論文審査委員会を審査申請者ごとに設置し、論文審査の公平性、客観性を確保している。(資料 415-3 大学院看護学研究科修士論文審査表)、(資料 415-4 修士論文・課題研究論文審査結果の要旨及び審査者(最終試験では、看護学研究科教員全員が審査申請者))</li> </ul>	<p>A</p>		<p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示</li> <li>学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置</li> <li>学位授与に係る責任体制及び手続の明示</li> <li>適切な学位授与</li> </ul> <p>達成：・修士論文、課題研究論文それぞれの審査基準を設け、シラバス(資料 411-2(既出 112-1))に明示し学生に周知している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学位審査は、主査(指導教員ではない看護学研究科教授)と副査(看護学研究科教員、指導教員を含めても良い) 2 名による論文審査委員会を審査申請者ごとに設置し、論文審査の公平性、客観性を確保している。(資料 415-3) 大学院看護学研究科修士論文審査表、(資料 415-4) 修士論文・課題研究論文審査結果の要旨及び審査者(最終試験では、看護学研究科教員全員が審査申請者) ごとに「看護学研究科最終試験(発表会)意見書」(資料 415-5) 令和元年度 大学院看護学研究科最終試験(発表会)意見書)を記載し、その意見を参考に審査委員会における最終的な審査結果を纏め上げている。</li> <li>学位の授与は、看護学研究科教授会において修了要件単位の修得、論文審査の可否に基づき、看護学研究科教授会構成員(教授以上)の挙手採決により、出席者の 3 分の 2 以上の決によって決定しており、学長が学位を授与している。(資料 415-6)</li> </ul>	<p>A</p>

	<p>ごとに「看護学研究科最終試験（発表会）意見書」（資料 415-5）令和 3 年度大学院看護学研究科最終試験（発表会）意見書）を記載し、その意見を参考に審査委員会における最終的な審査結果をまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学位の授与は、看護学研究科教授会において修了要件単位の修得、論文審査の可否に基づき、看護学研究科教授会構成員（教授以上）の挙手採決により、出席者の3分の2以上の決によって決定しており、学長が学位を授与している。（資料 415-6「獨協医科大学学位規程看護学研究科細則」）</li> <li>学位授与に関わる全学的なルールは、獨協医科大学学位規程第 4 条に規定されている。判定の基準は、DP（学位授与の方針）として定めており、修業年限以上在籍し、所定の単位を修得するとともに、修士論文の審査及び最終試験に合格、また、以下の素養を身につけた者に学位を授与している。</li> </ul> <p>&lt;論文コース&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>倫理課題について多角的に分析し、対応できる能力を有する。</li> <li>保健医療福祉チームにおいて、総合的に看護ケアをマネジメントする管理能力を有する。</li> <li>看護職者及び関連する多職者の中で専門的立場から役割を發揮し、教育的能力を有する。</li> <li>看護現象を科学的に分析・評価し、看護学を発展させるための基礎的研究能力を有する。</li> </ol> <p>&lt;専門看護師コース&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>倫理課題について多角的に分析し、対応できる能力を有する。</li> <li>保健医療福祉チームにおいて、総合的に看護ケアをマネジメントする管理能力を有する。</li> <li>看護職者及び関連する多職者の中で専門的立場から役割を發揮し、教育的能力を有する。</li> <li>看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な看護実践を開発するための基礎的研究能力を有する。</li> <li>専門分野における最新の知見と技術を備え、根拠に基づいた高度な看護実践能力を有する。</li> </ol>				
416	<p>⑦ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p> <p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定（特に専門的な職業との関連性が強いものにあたっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）</p> <p>達成：・厳格な論文審査が行われており、最終試験においても看護学研究科教員全員が意見書を記載し、その意見も踏まえた判定が行われている。令和 3 年度からルーブリック評価を取り入れ、修士論文評価表を用いて評価している。評価のポイントを明記し、4 段階評価として可視化を図った。（資料 416-1_修士論文評価表（主査・副査用））</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門看護師コース修了生においては、専門看護師認定審査に合格することが最大の目標であり、大学院修了後も事例検討会等を定期的に開催し学修成果を把握・評価している。</li> </ul>	A		<p>⑥学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p> <p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定</p> <p>416 達成：・厳格な論文審査が行われており、最終試験においても看護学研究科教員全員が意見書を記載し、その意見も踏まえた判定が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門看護師コース修了生においては、専門看護師認定審査に合格することが最大の目標であり、大学院修了後も事例検討会等を定期的に開催し学修成果を把握・評価している。</li> </ul>	A

<p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発      ≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p>達成：令和3年度に修了生全員に対して現状調査のアンケートを実施した。(資料413-3、413-4)</p> <p>未達：就職先へのアンケート調査の実施を課題とし、令和4年度にアンケートの内容や実施方法について検討する。</p> <p>対応：大学院修了生にとっての学習の集大成として修士論文(課題研究論文)の作成があげられるが、合格水準等をルーブリックなどで可視化するなど、新たな手法を取り入れることを令和2年度以降に段階的に検討していく。レポート作成ルーブリック(医学教育ワークショップ・基礎系案)などを参照する。令和3年度からルーブリック評価を取り入れ、修士論文評価表を用いて評価している。評価のポイントを明記し、4段階評価として可視化を図った。(資料416-1_修士論文評価表(主査・副査用))</p> <p>大学院生に対し学修の進捗状況を確認のため中間発表会(毎年7月に施行)、学修成果の評価のために大学院生の修士論文(課題研究論文)の報告会(毎年2月に実施)を充実させることを検討する。特に、中間発表会においても、修士論文の報告会と同様に、発表についての各教員の評価、質問とコメントは教学委員会を経由して、大学院生に文書で返すようにすることを検討する。</p> <p>大学院生の学修成果である修士論文(課題研究論文)を看護学部紀要(獨協医科大学リポジトリで外部に公開)や外部の学術誌への公表を検討する。</p> <p>達成：令和3年度の現状調査アンケート集計結果では、論文コース修了生からの回答者25名中19名(76%)が学会発表等を行っており、平成30年度より、若干低迷するものの教育課程、内容、方法が効果を表している。(資料413-3)</p>	B		<p>○学習成果を把握及び評価するための方法の開発      ≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント・テスト</li> <li>・ルーブリックを活用した測定</li> <li>・学習成果の測定を目的とした学生調査</li> <li>・卒業生、就職先への意見聴取</li> </ul> <p>達成：平成29、30年度に修了生全員に対して現状調査のアンケートを実施した。(資料416-1)</p> <p>未達：卒業生、就職先への意見聴取について、令和2年度は実施されなかったが、令和3年度は実施する予定である。</p> <p>対応：大学院修了生にとっての学習の集大成として修士論文(課題研究論文)の作成があげられるが、合格水準等をルーブリックなどで可視化するなど、新たな手法を取り入れることを令和2年度以降に段階的に検討していく。レポート作成ルーブリック(医学教育ワークショップ・基礎系案)などを参照する。</p> <p>大学院生に対し学修の進捗状況を確認のため中間発表会(毎年7月に施行)、学修成果の評価のために大学院生の修士論文(課題研究論文)の報告会(毎年2月に実施)を充実させることを検討する。特に、中間発表会においても、修士論文の報告会と同様に、発表についての各教員の評価、質問とコメントは教学委員会を経由して、大学院生に文書で返すようにすることを検討する。</p> <p>大学院生の学修成果である修士論文(課題研究論文)を看護学部紀要(図書館リポジトリで外部に公開)や外部の学術誌への公表を検討する。</p>	C
○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり				
<p>⑧ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>417 ○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果の測定結果の適切な活用</li> </ul> <p>達成：教育課程及びその内容、方法の適切性については、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で定期的に点検・評価を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の教学委員会(令和2年6月3日開催)において、教育課程及び</li> </ul>	A		<p>⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>417 ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果の測定結果の適切な活用</li> </ul> <p>達成：教育課程及びその内容、方法の適切性については、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会で定期的に点検・評価を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度の教学委員会(令和2年6月3日開催)において、教育課程及び</li> </ul>	A

	その内容、方法の適切性について教育の可視化を含め検討し、DP（資料 411-1（既出 111-5））、CP（資料 412-1（既出 111-4））の改正及びカリキュラムツリー（資料 413-1（既出 111-7））、カリキュラムマップ（413-2（既出 111-8））を作成した。令和 3 年度はこれらに基づいて教育を実施した。令和 4 年度に内容について点検・評価を行う予定である。			その内容、方法の適切性について教育の可視化を含め検討し、DP（資料 411-1（既出 111-5））、CP（資料 412-1（既出 111-4））の改正及びカリキュラムツリー（資料 413-1（既出 111-7））、カリキュラムマップ（413-2（既出 111-8））を作成した。	
	◎学修成果に関する卒業研修先との協議				
	○点検・評価結果に基づく改善・向上  達成：令和 3 年度の現状調査アンケート集計結果では、専門看護師コース（CNS）修了生からの回答者 11 名中 7 名（63.6%）が専門看護師の資格を取得しており、着実に教育課程、内容、方法が効果を表している。（資料 416-2） 対応：修士論文等について、学会発表・論文投稿を行なえていない、また、専門看護師資格を取得できていない修了生がいることから、 <b>研究生として修士論文の論文化及び公表を目指した指導を継続し</b> 、引き続き大学として支援していく。 ・修了生に対しては、積極的に研究会・事例検討会等を開催してバックアップしつつ、研究生制度の活用を促し、修士論文等を積極的に学会発表・論文投稿が行えるように支援していく。	B		○点検・評価結果に基づく改善・向上  達成：・平成 30 年度のアンケート集計結果では、論文コース修了生からの回答者 16 名中 13 名（81.3%）が学会発表等を行っており、着実に教育課程、内容、方法が効果を表している。（資料 417-1-①、②） ・平成 30 年度のアンケート集計結果では、専門看護師コース修了生からの回答者 4 名中 3 名（75%）が専門看護師の資格を取得しており、着実に教育課程、内容、方法が効果を表している。（資料 417-1-①、②） 未達：修士論文等について、学会発表・論文投稿を行なえていない、専門看護師資格を取得できていない修了生がいることから、バックアップしつつ、引き続き大学として支援していく。 対応：修了生に対しては、積極的に研究会・事例検討会等を開催してバックアップしつつ、研究生制度の活用を促し、修士論文等を積極的に学会発表・論文投稿が行えるように支援していく。	B

## 2. 根拠資料（名称）

2021（令和 3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
411	1	ディプロマ・ポリシー（既出 111-5）
	2	看護学研究科シラバス（既出 112-1）
	3	看護学研究科学生募集要項（既出 112-2）
412	1	カリキュラム・ポリシー（既出 111-4） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/curriculum-policy.html</a>
413	1	カリキュラムツリー（既出 111-7）
	2	カリキュラムマップ（既出 111-8）
	3	現状調査アンケート集計結果（論文コース）
	4	現状調査アンケート集計結果（CNS コース）
414	1	看護学研究科中間発表会

2020（令和 2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
411	1	ディプロマ・ポリシー（既出 111-5）
	2	令和 2 年度看護学研究科シラバス（既出 112-1）
	3	令和 3 年度看護学研究科学生募集要項（既出 112-2）
	4	大学院研究科教授会議事録（R2 年 11 月開催）（既出 111-6）
413	1	カリキュラムツリー（既出 111-7）

	2	大学院看護学研究科前期学習環境に関するアンケート調査結果
	3-①	履修計画（論文コース、専門看護師コース）
	3-②	看護学研究科（修士課程）履修モデル
	4	指導計画書作成に関わる運用方法
415	1	獨協医科大学大学院学則（既出 111-2）
	2	<a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/">獨協医科大学大学院学ホームページ https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/</a>
	3	大学院看護学研究科課題研究論文審査表
	4	修士論文・課題研究論文審査結果の要旨及び審査者
	5	大学院看護学研究科最終試験（発表会）意見書
	6	獨協医科大学学位規程看護学研究科細則
416	1	修士論文評価表（主査、副査用）

	2	カリキュラムマップ（既出 111-8）
	3	大学院研究科教授会（R3年3月開催）（既出 111-9）
414	1-①	指導計画書作成に関わる運用方法
	1-②	令和2年度教員指導計画書（特別研究Ⅰ）
	1-③	令和2年度教員指導計画書（特別研究Ⅱ）
415	1	獨協医科大学大学院学則（既出 111-2）
	2	看護学研究科教授会議事録（R2年10月開催）
	3	大学院看護学研究科課題研究論文審査表
	4	修士論文・課題研究論文審査結果の要旨及び審査者
	5	看護学研究科最終試験（発表会）意見書
	6	獨協医科大学学位規程看護学研究科細則
416	1	現状調査のアンケート用紙
417	1-①	現状調査アンケート集計結果（CNSコース）
	1-②	現状調査アンケート集計結果（論文コース）

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
511	① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。 ○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表  達成：・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシー（資料511-1）は適切に定められている。 ・本学ホームページ、シラバス（資料511-2（既出112-1））、学生募集要項（資料511-3（既出112-2））にそれぞれ明示し、公表している。	A
	○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法  達成：・アドミッション・ポリシーにおいて、看護学研究科として求める能力・人物像等を明記している。 ・入学希望者に求める水準等を判定する試験方法等は、学生募集要項（資料511-3（既出112-2））に明示し実施している。 ・論文コースと専門看護師コースでは、教育・研究指導等のカリキュラムが異なることから、どちらのコースを志願するかによって、入学資格審査における出願資格が異なるため、令和2年度から大学院看護学研究科教学委員会において検討を重ね、令和3年度にDP（資料511-4（既出111-5））、CP（資料511-5（既出111-4））をコース毎（論文、専門看護師（CNS））に改正するとともにカリキュラムツリー（資料511-6（既出111-7））、カリキュラムマップ（資料511-7（既出111-8））を作成し関連性を明確にした。	A
512	③ 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	A
	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定  達成：・学生募集要項（資料511-3（既出112-2））を大学（東日本が中心）、栃木県内医療機関、栃木県保健センター等に発送し、学生募集を行っている。	

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
511	① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。 ○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表  達成：・ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえたアドミッション・ポリシー（資料511-1）は適切に定められている。 ・ホームページ、シラバス（資料511-2（既出112-1））、学生募集要項（資料511-3（既出112-2））にそれぞれ明示し、公表している。	A
	○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法  達成：・アドミッション・ポリシーにおいて、看護学研究科として求める能力・人物像等を明記している。 ・入学希望者に求める水準等を判定する試験方法等は、学生募集要項（資料511-3（既出112-2））に明示し実施している。 未達：入学資格審査の出願資格の見直しの検討が必要である。 対応：論文コースと専門看護師コースでは、教育・研究指導等のカリキュラムが異なるため、どちらを志願するかによって、入学資格審査における出願資格を柔軟、かつ分かりやすくするなど令和2年度以降に段階的に検討を行っていく。令和2年度は、大学院看護学研究科教学委員会において検討され、DP（資料511-4（既出111-5））、CP（資料511-5（既出111-4））をコース毎（論文、専門看護師（CNS））に改正した。更にカリキュラムツリー（資料511-6（既出111-7））、カリキュラムマップ（資料511-7（既出111-8））を作成した。	B
512	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	A
	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定  達成：・学生募集要項（資料511-3（既出112-2））を大学（東日本が中心）、栃木県内医療機関、栃木県保健センター等に発送し、学生募集を行っている。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を卒業していない入学希望者を対象に、研究科独自の入学資格審査（全2回）を実施し、合格者に対しては受験資格を与えている。</li> <li>・入学者選抜は、全2回実施しており、第1期は10月上旬、第2期は1月下旬若しくは2月上旬に実施している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を卒業していない入学希望者を対象に、研究科独自の入学資格審査（全2回）を実施し、合格者に対しては受験資格を与えている。</li> <li>・入学者選抜は、全2回実施しており、第1期は10月上旬、第2期は1月下旬若しくは2月上旬に実施している。</li> </ul>	
	○授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供 「修学に必要な費用・経済的負担軽減の措置に関する情報」として、本学ホームページに掲載している。(資料512-1)					
	○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備  達成：・看護学研究科運営委員会が入学試験に関する企画立案及びその実施に当たるほか、入学試験に関する業務を実施している。(資料512-2) ・委員会委員長は看護学研究科長を充てており、入学者選抜の責任者となっている。	A			○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備  達成：・看護学研究科運営委員会が入学試験に関する企画立案及びその実施に当たるほか、入学試験に関する業務を実施している。(資料512-1) ・委員会委員長は看護学研究科長を充てており、入学者選抜の責任者となっている。	A
	○公正な入学者選抜の実施 ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施 →オンライン入学者選抜は実施していない。  達成：・選抜方法は、英語試験、専門科目試験、面接試験を実施しており、出願書類も併せて総合的に判定している。 ・面接試験では、「獨協医科大学看護学研究科面接試験実施要綱」を定め、看護学研究科教員4名（教授）で面接をしており、公正に実施している。(資料512-3)	A			○公正な入学者選抜の実施  達成：・選抜方法は、英語試験、専門科目試験、面接試験を実施しており、出願書類も併せて総合的に判定している。 ・面接試験では、「獨協医科大学看護学研究科面接試験実施要綱」を定め、看護学研究科教員4名（教授）で面接をしており、公正に実施している。(資料512-2)	A
	○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施 ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の配慮等）  達成：・上述に準じ厳格に実施している。	A			○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施  達成：・上述に準じ厳格に実施している。	A
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。				③適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
513	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 ＜修士課程、博士課程、専門職学位課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率 在籍学生数17/収容定員20=85%（令和3年度） ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 学生募集に関し、①出願資格審査期間の延長、②ホームページの充実、③スタディサプリでの情報提供を行った。今後も、ホームページの充実を図り、	B			○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ＜修士課程、博士課程、専門職学位課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率  達成：・入学定員は10名、収容定員は20名である。 ・令和2年度の入学定員比率は0.5倍、収容定員比率は0.7倍（休学者・長	B

	<p>リーフレットの作成やオープンキャンパスの実施等に工夫をこらし、安定した入学者の確保に努める。</p> <p>達成：・入学定員は10名、収容定員は20名である。 ・令和3年度の入学定員比率は70%、収容定員比率は85%（休学者・長期履修生含む。）であった。令和元年度の入学生は少なかったものの、収容定員は概ね適正に管理されている。</p> <p>未達：引き続き定数を満たす安定した入学生の確保が課題である。</p> <p>対応：・令和2年度に遠隔授業や集中講義など、社会人が学びやすい環境を整備し、今後も継続して研究科の魅力を積極的にPRし、学生確保につなげていく。効果的な具体策を研究科教学委員会、研究科運営委員会で検討していく。また、地域共創看護教育センター事業の各種プログラムには、看護研究に関しての内容のものがあるため、参加者に進学意識づけを行っていく。（資料513-1） 令和3年度より外部の大学院検索サイトに登録し、積極的な情報提供を実施している。（外部サイト：リクルート社のスタディサプリ）</p>				<p>期履修生含む。）であった。令和元年度の入学生は少なかったものの、収容定員は概ね適正に管理されている。</p> <p>未達：定数を満たす安定した入学生の確保が課題である。</p> <p>対応：・令和2年度に遠隔授業や集中講義など、社会人が学びやすい環境を整備し、今後も継続して研究科の魅力を積極的にPRし、学生確保につなげていく。効果的な具体策を研究科教学委員会、研究科運営委員会で検討していく。また、地域共創看護教育センター事業の各種プログラムには、看護研究に関しての内容のものがあるため、参加者に進学意識づけを行っていく。（資料513-1）</p>	
514	<p>④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価</p> <p>達成：・学生の受け入れの適切性については、定期的に看護学研究科運営委員会、看護学研究科教授会において点検・評価を行っている。 ・令和3年度は、アドミッション・ポリシーをコース毎（論文コース・専門コース）に分類し、教育内容との関連性を明確にした。</p>	A		514	<p>④学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価</p> <p>達成：・学生の受け入れの適切性については、定期的に看護学研究科運営委員会、看護学研究科教授会において点検・評価を行っている。 ・令和元年度にアドミッション・ポリシーの検証が行われた。コース毎に作成する必要性も踏まえ、今後も定期的に教学委員会、運営委員会、教授会で検討していく。</p>	A
	<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>達成：専門教育の幅、魅力を高める目的で、令和2年度に精神看護学専門看護師コースを開設した。 ・遠隔授業の活用により、社会人学生が学びやすい状況を少しずつ確保している。 ・学生の確保にあたっては、令和2年度よりテレビ会議システム等を用いた遠隔授業の活用等、社会人学生が入学し、学びやすい環境整備の構築を検討している。 ・専門看護師コースでは実習に比重が重くかかるため、その間の休職や長期履修の説明等を丁寧に行っていく。 ・令和2年度から精神看護学専門看護師コースが開設され、専門教育の幅、魅力が高まった。また、安定した入学制確保のための広報活動として、HPや全国版「スタディサプリ（令和3年度から実施）」を用いた積極的にPRを行っている。 ・令和2年度の精神看護学専門看護師コース開設に伴い、教育環境の整備とし</p>	A			<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上</p> <p>達成：専門教育の幅、魅力を高める目的で、令和2年度に精神看護学専門看護師コースを開設した。 未達：社会人学生が学ぶ上で、満足する環境とはいえない。 対応：学生の確保にあたっては、令和2年度よりテレビ会議システム等を用いた遠隔授業の活用等、社会人学生が入学し、学びやすい環境整備の構築を検討している。専門看護師コースでは実習に比重が重くかかるため、その間の休職や長期履修の説明等を丁寧に行っていく。令和2年度から精神看護学専門看護師コースが開設され、専門教育の幅、魅力が高まった。また、安定した入学制確保のための広報活動として、HPや全国版「スタディサプリ（令和3年度から実施）」を用いた積極的にPRしていく。 令和2年度の精神看護学専門看護師コース開設に伴い、教育環境の整備として精神看護学領域の教員配置を3名（教授、講師、助教）から4名（教授、学内教授、講師、助教）に増員した。</p>	B

	て精神看護学領域の教員配置を3名（教授、講師、助教）から4名（教授、学内教授、講師、助教）に増員した。				
--	---	--	--	--	--

## 2. 根拠資料（名称）

2021（令和3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
511	1	アドミッション・ポリシー <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/admission-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/admission-policy.html</a>
	2	令和3年度看護学研究科シラバス（既出 112-1）
	3	令和4年度看護学研究科学生募集要項（既出 112-2）
	4	ディプロマ・ポリシー（既出 111-5）
	5	カリキュラム・ポリシー（既出 111-4）
	6	カリキュラムツリー（既出 111-7）
	7	カリキュラムマップ（既出 111-8）
512	1	「修学に必要な費用・経済的負担軽減の措置に関する情報」 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html</a>
	2	看護学研究科運営委員会規程（PDF）
	3	獨協医科大学看護学研究科面接試験実施要綱（PDF）
513	1	地域共創看護教育センター事業 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/regional/">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/regional/</a>

2020（令和2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
511	1	アドミッション・ポリシー <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/admission-policy.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/graduate-school/admission-policy.html</a>
	2	令和2年度看護学研究科シラバス（既出 112-1）
	3	令和3年度看護学研究科学生募集要項（既出 112-2）
	4	ディプロマ・ポリシー（既出 111-5）
	5	カリキュラム・ポリシー（既出 111-4）
	6	カリキュラムツリー（既出 111-7）
	7	カリキュラムマップ（既出 111-8）
512	1	看護学研究科運営委員会規程（PDF）
	2	獨協医科大学看護学研究科面接試験実施要綱（PDF）
513	1	地域共創看護教育センター事業 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/regional/">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/regional/</a>

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 6	教員・教員組織
------	---------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己 評価
611	①大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	B
	○大学として求める教員像の設定 達成： 看護学部大学院看護学研究科教員選考規程（資料 611-1） 看護学部教員任用基準（資料 611-2） 対応： 上記に加え、大学全体としての「求める教員像」を設定し、ホームページで内外に周知した。（資料 611-3） ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 達成： ・大学院生に対し専門分野を深く、専門外分野を幅広く教授する。 ・看護学部教員任用基準において、大学教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有し、本学教員にふさわしい人格及び識見を有するものと明文化している。（資料 611-2） *看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	
	○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示 達成： ・編制方針：大学院生に対し専門分野を深く、専門外分野を幅広く教授する。 ・役割・連携：大学院看護学研究科運営委員会（資料 611-4（既出 512-1））及び同教授会（資料 611-5）にて大学院教育に関わる教員の組織的連携体制をとっている。 上記に加え、大学全体としての「教員組織の編制方針」を設定しホームページで内外に公表した。（資料 611-3）またこれに加え、看護学部教員組織規程を制定して編成方針を規定した。（資料 611-6） *看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己 評価
611	①大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	B
	○大学として求める教員像の設定 達成： 看護学部大学院看護学研究科教員選考規程（資料 611-1） 看護学部教員任用基準（資料 611-2） 対応： 上記に加え、大学全体としての「求める教員像」を設定し、ホームページで内外に周知した。（資料 611-3） ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 達成： ・大学院生に対し専門分野を深く、専門外分野を幅広く教授する。 ・看護学部教員任用基準において、大学教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有し、本学教員にふさわしい人格及び識見を有するものと明文化している。（資料 611-2） *看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	
	○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示 達成： ・編制方針：大学院生に対し専門分野を深く、専門外分野を幅広く教授する。 ・役割・連携：大学院看護学研究科運営委員会（資料 611-4（既出 512-1））及び同教授会（資料 611-5）にて大学院教育に関わる教員の組織的連携体制をとっている。 上記に加え、大学全体としての「教員組織の編制方針」を設定しホームページで内外に公表した。（資料 611-3）またこれに加え、看護学部教員組織規程を制定して編成方針を規定した。（資料 611-6） *看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任：大学院看護学研究科長（各課程の教授または准教授が教育研究の責任者）</li> <li>看護学研究科（論文コース、専門看護師コース）の専任教員一覧と兼任・兼任教員一覧があり、氏名、職名、担当科目の記載がある。（資料 611-7（既出 112-1））</li> </ul>	
	②教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	
612	<p>○大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学設置基準及び大学院設置基準に定める教員組織、教員の資格に則り、各学部及び各研究科の教授会の下で、適切な資格を有する教員が組織されている。</li> <li>看護学研究科（論文コース、専門看護師コース）の専任教員一覧と兼任・兼任教員一覧があり、氏名、職名、担当科目の記載がある。（資料 611-7（既出 112-1））</li> </ul>	A
	<p>○適切な教員組織編制のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性</li> <li>各学位課程の目的に即した教員配置</li> <li>国際性、男女比</li> <li>特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮</li> <li>教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置</li> </ul> <p>獨協医科大学大学院看護学研究科教員資格申し合わせ事項に規定されている（612-1_獨協医科大学大学院看護学研究科教員資格申し合わせ事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置</li> <li>教員の授業担当負担への適切な配慮</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員選考委員会での審査を経て、各課程・領域にふさわしい教員を配置。</li> <li>教育課程に適した教員の配置を行っている。</li> </ul> <p>対応：</p> <p>教員の組織編成にあたっては、広く国内外に人材を求め、年齢・性別構成及び専任教員と非常勤教員の比率にも配慮して配置することを明文化して、ホームページ等で内外に周知した。（資料 611-3）また、看護学部教員組織規程を制定して編成方針を規定した。（資料 611-6）</p> <p>*看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）</p>	B
	○教養教育の運営体制	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>責任：大学院看護学研究科長（各課程の教授または准教授が教育研究の責任者）</li> <li>看護学研究科（論文コース、専門看護師コース）の専任教員一覧と兼任・兼任教員一覧があり、氏名、職名、担当科目の記載がある。（資料 611-7（既出 112-1））</li> </ul>	
	②教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	
612	<p>○大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学設置基準及び大学院設置基準に定める教員組織、教員の資格に則り、各学部及び各研究科の教授会の下で、適切な資格を有する教員が組織されている。</li> <li>看護学研究科（論文コース、専門看護師コース）の専任教員一覧と兼任・兼任教員一覧があり、氏名、職名、担当科目の記載がある。（資料 611-7（既出 112-1））</li> </ul>	A
	<p>○適切な教員組織編制のための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む）</li> <li>バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置</li> <li>教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授又は助教）の適正な配置</li> <li>研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置</li> <li>教員の授業担当負担への適切な配慮</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員選考委員会での審査を経て、各課程・領域にふさわしい教員を配置。</li> <li>教育課程に適した教員の配置を行っている。</li> </ul> <p>対応：</p> <p>教員の組織編成にあたっては、広く国内外に人材を求め、年齢・性別構成及び専任教員と非常勤教員の比率にも配慮して配置することを明文化して、ホームページ等で内外に周知した。（資料 611-3）また、看護学部教員組織規程を制定して編成方針を規定した。（資料 611-6）</p> <p>*看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）</p>	B

613	③教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。 ○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 達成： ・特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため、看護学部教員の選考規程・任用基準」（資料 611-2）に準じて対応。教員を任用する場合、看護学部・看護学研究科合同の教員選考委員会（資料 611-1）の議を経て学長に答申し、大学院看護学研究科教授会に報告している。	A
	○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施 達成： ・看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	A
614	④ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。 ○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施 達成： ・看護学部 FD 委員会（資料 614-1）の活動により、教員の資質向上を図る。 ・教員授業評価（資料 614-2 -①～②）の実施（学生評価・同僚評価） ・教育の質の向上を目的とした「教員宿泊研修会」を年 1 回実施しているが、R3 年度は、コロナ感染症の蔓延状況を踏まえ、WEB にて開催した。（資料 614-3）	A
	○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用 達成： ・看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため） ・授業の改善点を明らかにし授業環境の整備と教育の質の向上を目的に、大学院生が授業評価を行い、集計結果を大学院生室に一定期間開示している。 根拠資料：令和 3 年度大学院授業評価に対する回答（614-2-②） 対応： 教員の教育活動、研究活動、社会活動等の結果を処遇に反映する施策を検討中である。（リニューアルされた教員業績管理システムを用いて、研究費の傾斜配分の評価指標の一部とする予定であることに併せて、教員の人事評価にも評価指標の一部として活用することで検討している。） 対応： ・上述の未達項目は、諸委員会で検討し、改善に努める。任用規程変更 人事評価表及び活動評価表に基づき処遇に反映した。（看護学部と同様）	B
615	⑤教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	

613	③教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。 ○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 達成： ・特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため、看護学部教員の選考規程・任用基準」（資料 611-2）に準じて対応。教員を任用する場合、看護学部・看護学研究科合同の教員選考委員会（資料 611-1）の議を経て学長に答申し、大学院看護学研究科教授会に報告	A
	○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施 達成： ・看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため）	A
614	④ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。 ○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施 達成： ・看護学部 FD 委員会（資料 614-1）の活動により、教員の資質向上を図る。 ・教員授業評価（資料 614-2 -①～②）の実施（学生評価・同僚評価） ・教育の質の向上を目的とした「教員宿泊研修会」を年 1 回実施しているが、R2 年度においては、コロナ感染症の蔓延状況を踏まえ、WEB にて開催した。（資料 614-3）	A
	○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用 達成： ・看護学部と同様（特任教授を除き看護学部教員が兼務しているため） ・授業の改善点を明らかにし授業環境の整備と教育の質の向上を目的に、大学院生が授業評価を行い、集計結果を大学院生室に一定期間開示している。 根拠資料：令和 2 年度大学院授業評価に対する回答（614-2-②） 令和 2 年度授業評価集計結果（前期）（614-4） 対応： 教員の教育活動、研究活動、社会活動等の結果を処遇に反映する施策を検討中である。（リニューアルされた教員業績管理システムを用いて、研究費の傾斜配分の評価指標の一部とする予定であることに併せて、教員の人事評価にも評価指標の一部として活用することで検討している。） 対応： ・上述の未達項目は、諸委員会で検討し、改善に努める。任用規程変更 人事評価表及び活動評価表に基づき処遇に反映した。（看護学部と同様）	B

	達成：獨協医科大学大学院の教員の資格については、獨協医科大学大学院看護学教員資格申し合わせ事項により規定している。(資料 612-1 (獨協医科大学大学院看護学教員資格申し合わせ事項))	
	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 達成：教員組織については、看護学部教員組織規程に基づき、各領域には基本定員を定めず、看護学部の基本定員総数の範囲内で教授、准教授、講師及び助教を置くことが定められている。その適切性については、看護学部運営委員会において必要に応じて点検・評価がなされ、見直しを行う場合には当運営委員会・教授会並びに学長諮問会議での議を経て、学長が決定している。	
	○点検・評価結果に基づく改善・向上 達成：教員組織については、看護学部運営委員会において必要に応じ点検・評価を行っている。本年度においては、本学の特色である「Sustainable development goals 3 (国連による持続可能な開発目標 SDG3：すべての人に健康と福祉を)を推進するため、既存の公衆衛生看護学と国際看護を統合した領域「国際公衆衛生看護学」を組織編成した。これにより、従来の地域看護学領域を国際公衆衛生看護学領域に名称を変更し、教員数も2名増員するなど、教育の向上に向け改善を図った。 これらは、看護学部運営委員会・教授会並びに学長諮問会議での議を経て学長が決定している。(資料 615-1)	


## 2. 根拠資料(名称)

2021(令和3)年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
611	1	看護学部・大学院看護学研究科教員選考規程
	2	看護学部教員任用基準
	3	求める教員像及び教員組織の編制方針
	4	看護学研究科運営委員会規程(既出 512-2)
	5	看護学研究科教授会規程
	6	看護学部教員組織規程
611	7	看護学研究科シラバス(既出 112-1)
612	1	獨協医科大学大学院看護学研究科教員資格申し合わせ事項
614	1	看護学部FD委員会規程

2020(令和2)年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
611	1	看護学部・大学院看護学研究科教員選考規程
611	2	看護学部教員任用基準
611	3	求める教員像及び教員組織の編制方針
611	4	看護学研究科運営委員会規程(既出 512-1)
611	5	看護学研究科教授会規程
611	6	看護学部教員組織規程
611	7	令和2年度看護学研究科シラバス(既出 112-1)
614	1	看護学部FD委員会規程

614	2-①	令和3年度大学院授業評価スケジュール
614	2-②	令和3年度大学院授業評価に対する回答
614	3	令和3年度教員研修会
615	1	国際公衆衛生看護学の編成

614	2-①	令和2年度大学院授業評価スケジュール
	2-②	令和2年度大学院授業評価に対する回答
614	3	令和2年度教員研修会

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 7	学生支援
------	------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
711	① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。	A
	○大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示 達成： ・学生が学修に専念できるように学生生活に関する情報は、本学「ホームページ」（資料 711-1）や「大学看護学研究科シラバス」（資料 711-2（既出 112-1））に明記している。 ・学生支援に関する大学の方針は、大学看護学院研究科シラバス（資料 711-2（既出 112-1））に明示されており、全学生に周知されている。また、看護学部棟内のキャリア支援では、令和2年度から専任者を配置し、積極的な学生支援に努めている。（資料 711-3）	
712	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	A
	○学生支援体制の適切な整備 達成： ・看護学研究科シラバスは、大学院生・教職員全員に配付し周知、共有している。 ・看護学研究科教学委員会（資料 712-1）を実施し、学修支援、生活支援、キャリア支援に関する事項を審議検討している。	
	○学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 達成： ・各領域の判断により実施する。 ・正課外教育 達成： ・学生は社会人のため、正式な正課外教育は行っていないが、必要に応じて時間外にゼミ等を実施し、研究指導を行っている。また、学生は、学会参加・発表などの活動が、学生一人当たり 20 万円の研究費により実施できる。 ・自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援 全学生を LMS に登録しており、講義資料の配付や課題の提出など、環境整備を	

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
711	① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。	A
	○大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示 達成： ・学生が学修に専念できるように学生生活に関する情報は、本学「ホームページ」（資料 711-1）や「大学看護学研究科シラバス」（資料 711-2（既出 112-1））に明記している。 ・学生支援に関する大学の方針は、大学看護学院研究科シラバス（資料 711-2（既出 112-1））に明示されており、全学生に周知されている。また、看護学部棟内のキャリア支援では、令和2年度から専任者を配置し、積極的な学生支援に努めている。（資料 711-3）	
712	② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	A
	○学生支援体制の適切な整備 達成： ・看護学研究科シラバスは、大学院生・教職員全員に配付し周知、共有している。 ・看護学研究科教学委員会（資料 712-1）を実施し、学修支援、生活支援、キャリア支援に関する事項を審議検討している。	
	○学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 達成： ・各領域の判断により実施する。 ・正課外教育 達成： ・学生は社会人のため、正式な正課外教育は行っていないが、必要に応じて時間外にゼミ等を実施し、研究指導を行っている。また、学生は、学会参加・発表などの活動が、学生一人当たり 20 万円の研究費により実施できる。	

<p>進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮（通信環境確保のための支援、授業動画の再視聴機会の確保など）</li> </ul> <p>オンライン教育を効率的に実施するため、令和2年度にBIGPAD 4K スタンダードタッチディスプレイ一式を導入し、令和3年度にはYAMAHA エフアイトコミュニケーションマイクスピーカーを設置するなど、オンラインと対面を併用したハイブリッド授業にも対応できる環境を整えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生等の多様な学生に対する修学支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の判断に委ねている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生に対する修学支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生に対する支援としては、現在在籍していないが看護学研究科棟内（看護学部棟内）はバリアフリー化され、エレベーターや障がい者用トイレなどを設置している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域で把握し、指導している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留年者及び休学者の状況把握と対応</li> <li>・退学希望者の状況把握と対応</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域で把握し、学生面談の対応を行っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金その他の経済的支援の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金等の経済的支援としては、本学独自の奨学金制度（資料712-2）及び日本学生支援機構奨学金制度にて支援し、HPの「経済負担軽減の措置」にて情報提供を行っている。（資料712-3）</li> <li>・将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するとともに、「TA（ティーチングアシスタント）」制度を設け経済的支援を行っている。（資料712-4）</li> <li>・毎年度、学生一人当たり20万円の研究費を支給し、研究活動の補助を行っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供</li> </ul> <p>「修学に必要な費用・経済的負担軽減の措置に関する情報」として、ホームページに下記内容を掲載している。</p> <p>学修への意欲を高めるとともに、優れた看護実践者、看護管理者、看護教育者・研究者を育成することを目的に、在籍するすべての学生を対象に学会参加、研究のための調査、論文作成等にかかる研究費の一部を支援する制度を設けている。また、学生の円滑な修学の遂行、勉学意欲の喚起並びに研究の活性化を目的に、本学独自の奨学金制度を設けている。（資料712-5）</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生等の多様な学生に対する修学支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の判断に委ねている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生に対する修学支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生に対する支援としては、現在在籍していないが看護学研究科棟内（看護学部棟内）はバリアフリー化され、エレベーターや障がい者用トイレなどを設置している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振の学生の状況把握と指導</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域で把握し、指導している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留年者及び休学者の状況把握と対応</li> <li>・退学希望者の状況把握と対応</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域で把握し、学生面談の基、対応を行っている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金その他の経済的支援の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金等の経済的支援としては、本学独自の奨学金制度（資料712-2）及び日本学生支援機構奨学金制度にて支援し、HPの「経済負担軽減の措置」にて情報提供を行っている。（資料712-3）</li> <li>・将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供するとともに、「TA（ティーチングアシスタント）」制度を設け経済的支援を行っている。（資料712-4）</li> <li>・毎年度、学生一人当たり20万円の研究費を支給し、研究活動の補助を行っている。</li> </ul>	
--	--	--	--	---	--

<p>○学生の生活に関する適切な支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談に応じる体制の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の責任者が対応することで整備されている。</li> <li>・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止については、「獨協医科大学ハラスメント防止に関する規程」（資料 712-6-①）が整備され、各種ハラスメントの防止、相談体制が確保されている。</li> <li>・大学全体の委員会「ハラスメント防止委員会」が置かれ、定期的に点検を行なっている。</li> <li>・学生への周知方法について、「学生生活のしおり」及び「シラバス」においてハラスメント防止に関する記載を明記すると共に、学内の掲示物（資料 712-6-②）及びオリエンテーションにおいて周知・指導を行っている。</li> <li>・指導教員と学生の1対1のゼミナールではなく、可能であれば複数の教員や学生とゼミナールを実施するようにして対応している。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPにてハラスメントに対する本学の取り組みについて、明示が分かりにくので今後、改善に向け検討していく。</li> </ul> <p>ホームページでは、「ハラスメントについて」として、教職員関連から学内専用みのアクセスで組織、体制について説明がなされている。（資料 712-6-③）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心身の健康、保健衛生については、保健センターが対応し、毎年全学生を対象に定期健康診断の実施・管理を行っている。</li> <li>・心理的な問題を抱える学生に対しては、臨床心理士の資格を有する専門カウンセラーにより個別に対応している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係構築につながる措置の実施（学生の交流機会の確保等）</li> </ul> <p>環境としては、24時間いつでも自由に入室できる学生専用の研究室があるため、現状として学生同士の情報交換、交流は行えている。また、CNS 修了生での事例検討会を実施している。さらに修了生での情報交換および学術的な意見交換ができる機会を設けることを検討予定。実施にあたっては、学生の協力も不可欠であることから、具体的な運営方法について在学生、修了生と協働して検討していきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援として、学生寮「ドミトリーいちょう」の8室を、看護学研究科生・助産学専攻科生に割り当て、経済的支援を行っている。（資料 712-7）</li> <li>・教育研究活動中やプライベートな活動におけるケガや事故、賠償責任に対応す</li> </ul>	<p>A</p>	<p>○学生の生活に関する適切な支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の相談に応じる体制の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の責任者が対応することで整備されている。</li> <li>・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメント防止については、「獨協医科大学ハラスメント防止に関する規程」（資料 712-5-①）が整備され、各種ハラスメントの防止、相談体制が確保されている。</li> <li>・大学全体の委員会「ハラスメント防止委員会」が置かれ、定期的に点検を行なっているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に鑑み、関係資料とシンポジウムの参加を持って委員会及び研修会とした。（資料 712-5-②）</li> <li>・学生への周知方法について、「学生生活のしおり」及び「シラバス」においてハラスメント防止に関する記載を明記すると共に、学内の掲示物（資料 712-5-③）及びオリエンテーションにおいて周知・指導を行っている。</li> <li>・指導教員と学生の1対1のゼミナールではなく、可能であれば複数の教員や学生とゼミナールを実施するようにして対応している。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPにてハラスメントに対する本学の取り組みについて、明示が分かりにくので今後、改善に向け検討していく。</li> </ul> <p>ホームページでは、「ハラスメントについて」として、教職員関連から学内専用みのアクセスで組織、体制について説明がなされている。（資料 712-5-④）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配慮</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の心身の健康、保健衛生については、保健センターが対応し、毎年全学生を対象に定期健康診断の実施・管理を行っている。（資料 712-6）</li> <li>・心理的な問題を抱える学生に対しては、臨床心理士の資格を有する専門カウンセラーにより個別に対応している。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他の支援</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援として、学生寮「ドミトリーいちょう」の8室を、看護学研究科生・助産学専攻科生に割り当て、経済的支援を行っている。（資料 712-7）</li> <li>・教育研究活動中やプライベートな活動におけるケガや事故、賠償責任に対応することができるよう、全学生が大学負担で日本看護学校協議会共済会の総合保障制度「Will」に加入している。（資料 712-8）</li> </ul>	<p>A</p>
--	----------	---	----------

	<p>ることができるよう、全学生が大学負担で日本看護学校協議会共済会の総合保障制度「Will」に加入している。(資料 712-8)</p>					
	<p>○学生の進路に関する適切な支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の実施</li> <li>・学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備</li> <li>・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの指導教員の下、個別に適切な指導を行っている。</li> <li>・看護学部棟内にキャリア支援室が配置されており、令和2年度には専任者を配置するなど、キャリア支援の充実を図っている。</li> <li>・令和3年4月1日に、地域共創看護教育センターは学長直属の組織として機能し、本学看護学部並びに看護学研究科及び助産学専攻科と関連した組織と位置付けられた。獨協医科大学地域共創看護教育センター規程では、看護専門職者のキャリア発達の支援も業務に規定されており、CNS 事例検討会等修了生を対象とした事例検討会を行っている。事例検討会を通して、臨床のCNSの役割と機能についての見識を深めるための支援を行っている。また、地域共創センター事業としてCNS受験に向けた対策講座を行っている。(資料 712-9 (既出 311-6) _ (獨協医科大学地域共創看護教育センター規程))</li> <li>・大学院の入学生は全て社会人で、中堅・管理職者として就労している人がほとんどであり、利用件数は少ないが、キャリア支援の相談窓口は確保されている。</li> <li>・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定又は当該機会に関する情報提供</li> </ul>	A			<p>○学生の進路に関する適切な支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のキャリア支援を行うための体制（キャリアセンターの設置等）の整備</li> <li>・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの指導教員の下、個別に適切な指導を行っている。</li> <li>・令和2年度よりキャリア支援室開設予定。</li> <li>・看護学部棟内にキャリア支援が設置されており、令和2年度から専任を配置し、キャリア支援の充実を図った。</li> </ul>	A
	<p>○学生の正課外活動（部活動等）を充実させるための支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当なし</li> </ul>	—			<p>○学生の正課外活動（部活動等）を充実させるための支援の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当なし</li> </ul>	—
	<p>○その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年2回大学院研究科学習環境に関するアンケート調査（資料 712-10）を実施し、看護学研究科教学委員会で検討の上、可能な限り要望に応え、学生支援の充実を図っている。</li> </ul>	A			<p>○その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年度、学生生活アンケートを実施し、看護学研究科教学委員会で検討の上、可能な限り要望に応え、学生支援の充実を図っている。</li> </ul>	A
713	<p>③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学研究科教学委員会において、学習支援の調査を年2回実施し、授業内容に関する意見や学習環境に係る意見を募ることで、さらなる改善に繋げている。(資料 712-10)</li> </ul>	B		713	<p>③学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p> <p>○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学研究科教学委員会による学生生活アンケートを実施しているが、令和2年度は、コロナ感染症の蔓延状況の影響もあり、実施していない。</li> </ul>	B

<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上 達成： ・令和3年度大学院研究科前期学習環境に関するアンケート調査結果を基に、看護学研究科教学委員会及び看護学研究科教授会において協議・検討を行い、次年度の改善・向上に努めている。</p>	A		<p>○点検・評価結果に基づく改善・向上 達成： ・学生生活アンケート結果を基に、看護額研究科教学委員会及び看護学研究科教授会において検討を行い、次年度に向けての改善・向上に努めている。(資料713-2)</p>	A
---	---	--	--	---

2. 根拠資料（名称）

2021（令和3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
711	1	学生生活に関するホームページ <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/</a>
	2	令和3年度看護学研究科シラバス（既出112-1） <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2021/html5.html#page=1">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2021/html5.html#page=1</a>
	3	キャリア支援体制 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn/schoollife/support.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn/schoollife/support.html</a>
712	1	看護学研究科教学委員会規程
	2	獨協医科大学大学院奨学金貸与規程
	3	経済的負担軽減の措置 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html</a>
	4	獨協医科大学大学院ティーチングアシスタント学生に関する規程
712	5	修学に必要な費用・経済的負担軽減の措置に関する情報 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html</a>
	6-①	獨協医科大学ハラスメント防止に関する規程
	6-②	廊下のポスター掲示の写真
	6-③	ハラスメントについて
	7	獨協医科大学 Dormitory（さくら・いちょう）規程
	8	日本看護学校協議会共済会総合保険制度「Will」パンフレット
	9	獨協医科大学地域共創看護教育センター規程（既出311-6）
712	10	学習環境アンケート調査内容

2020（令和2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
711	1	学生生活に関するホームページ <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/</a>
711	2	令和2年度看護学研究科シラバス（既出112-1）
711	3	キャリア支援体制 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn/schoollife/support.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn/schoollife/support.html</a>
712	1	看護学研究科教学委員会規程
712	2	獨協医科大学大学院奨学金貸与規程
712	3	経済的負担軽減の措置 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/reduce-burden.html</a>
712	4	獨協医科大学大学院ティーチングアシスタント学生に関する規程
712	5-①	獨協医科大学ハラスメント防止に関する規程
712	5-②	令和2年度ハラスメント防止委員会開催通知
712	5-③	廊下のポスター掲示の写真
712	6	令和2年度看護学研究科定期健康診断結果表
712	7	獨協医科大学 Dormitory（さくら・いちょう）規程
712	8	日本看護学校協議会共済会総合保険制度「Will」パンフレット

看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 8	教育研究等環境
------	---------

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
811	<p>① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。</p> <p>○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究等環境に関しては「獨協医科大学第12次基本計画」（資料811-1）に基づき、事業計画・予算（資料811-2）が策定・明示されている。</li> <li>・学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針については「看護学研究科運営方針及び事業計画」（資料811-3）が定められており、学長諮問会議や教授会を通じて教職員に共有されている。</li> <li>・看護学部の教育研究等環境に関しては、常に看護学部運営委員会、大学院看護学研究科運営委員会、助産学専攻科運営・教学委員会で検討を行い、その結果は、各教授会の議を経たうえで、学長諮問会議に提案されている。</li> </ul>	A
812	<p>② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。</p> <p>○施設、設備等の整備及び管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器、備品等の整備、情報セキュリティの確保</li> </ul> <p>令和3年度に獨協医大オンラインアカウント（D-DOA）の運用が始まり、情報セキュリティの観点を含め適切に整備している。（根拠資料なし）</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境について、十分に整備されている。</li> <li>・情報通信技術（ICT）等機器の活用状況について、各大学院生に一人1台のPCが提供され、学習及び研究等において有効に使用されている。</li> </ul> <p>オンライン教育を効率的に実施するため、令和2年度にBIGPAD 4K スタンダード型ディスプレイ一式を導入し、令和3年度にはYAMAHA エフアイトコミュニケーションマックスカーシステムを設置するなど、オンラインと対面を併用したハイブリッド授業にも対応できる環境を整えている。</p>	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
811	<p>①学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。</p> <p>○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研究等環境に関しては「獨協学園基本計画（事業計画）」（資料811-1）が策定されており、予算編成方針及び予算書（資料811-2）が作成されている。</li> <li>・学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針については「看護学研究科運営方針及び事業計画」（資料811-3）が定められており、学長諮問会議や教授会を通じて教職員に共有されている。</li> <li>・看護学部の教育研究等環境に関しては、常に看護学部運営委員会、大学院看護学研究科運営委員会、助産学専攻科運営・教学委員会で検討を行い、その結果は、各教授会の議を得たうえで、学長諮問会議に提案されている。</li> </ul>	A
812	<p>②教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。</p> <p>○施設、設備等の整備及び管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器、備品等の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境について、十分に整備されている。</li> <li>・情報通信技術（ICT）等機器の活用状況について、各大学院生に一人1台のPCが提供され、学習及び研究等において有効に使用されている。</li> <li>・施設、設備等の維持及び管理、安全及び衛生の確保</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設、整備等について、各大学院生には、学習スペース（専用の机、椅子、整理棚等）が整備され、学習及び研究等において有効に活用されている。</li> <li>・大学院生一人当たり年間20万円の研究予算が組まれており、指導教官の管理・指導の下、大学院生は自己の研究課題を遂行するために必要な物品の購入ができる。</li> </ul>	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設、設備等の維持及び管理、安全及び衛生の確保</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設、整備等について、各大学院生には、学習スペース（専用の机、椅子、整理棚等）が整備され、学習及び研究等において有効に活用されている。</li> <li>大学院生一人当たり年間 20 万円の研究予算が組まれており、指導教官の管理・指導の下、大学院生は自己の研究課題を遂行するために必要な物品の購入ができる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備</li> <li>学生の自主的な学習を促進するための環境整備</li> </ul> <p>学生専用の研究室を整備し、それぞれにノート PC を貸与している。同室内は無線 LAN が整備されており、設置しているコピー機（プリンター）より文献や資料などを自由に印刷できる環境である。また、全学生を LMS に登録しており、講義資料の配付や課題の提出など、環境整備を進めている。</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある学生に対する支援としては、現在在籍していないが看護学研究科棟内（看護学部棟内）はバリアフリー化され、エレベーターや障がい者用トイレなどを設置している。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある学生に対する支援としては、現在在籍していないが看護学研究科棟内（看護学部棟内）はバリアフリー化され、エレベーターや障がい者用トイレなどを設置している。</li> </ul>	
	<p>○教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組み</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の情報倫理については、「獨協医科大学研究者行動規範」（資料 812-1）、「獨協医科大学事務職員行動規範」（資料 812-2）、「獨協医科大学における研究者の不正行為に係る規程」（資料 812-3）が制定され、これに準じて周知されている。</li> <li>2015（平成 27）年から e-learning による研究倫理教材の（eAPRIN）を導入し（資料 812-4（既出 112-1））、教職員研究者及び大学院生に受講を義務付けるなど、啓発の強化に努め、科研費の説明会や各オリエンテーションにおいても厳しく指導している。</li> <li>ソーシャルメディア利用に関するガイドラインの制定（資料 812-5）</li> </ul>	A		<p>○教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組み</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の情報倫理については、「獨協医科大学研究者行動規範」（資料 812-1）、「獨協医科大学事務職員行動規範」（資料 812-2）、「獨協医科大学における研究者の不正行為に係る規程」（資料 812-3）が制定され、これに準じて周知されている。</li> <li>2015（平成 27）年から e-learning による研究倫理教材の（eAPRIN）を導入し（資料 812-4（既出 112-1））、教職員研究者及び大学院生に受講を義務付けるなど、啓発の強化に努め、科研費の説明会や各オリエンテーションにおいても厳しく指導している。</li> <li>ソーシャルメディア利用に関するガイドラインの制定（資料 812-5）</li> </ul>	A
813	<p>③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。</p> <p>○図書資料の整備と図書利用環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の所蔵は、2022 年 3 月 31 日現在で、図書 114,038 冊（和書 77,059 冊、洋書 36,979 冊、雑誌 124,726 冊（和雑誌 47,426 冊、洋雑誌 77,300 冊）、継続中の雑誌 587 誌（和雑誌 556 誌、洋雑誌 31 誌）、電子ジャーナル 7,694 誌（国内雑誌 1,535 誌、外国雑誌 6,159 誌）、電子ブック 895 タイトル、視聴覚資料 2,703 点である。（資料 813-1）</li> <li>資料費は、図書 8,695 千円、AV 資料 1,000 千円、雑誌 8,610 千円、電子コンテ</li> </ul>	A		<p>③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。</p> <p>○図書資料の整備と図書利用環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の所蔵は、2021 年 3 月 31 日現在で、図書 127,392 冊（和書 86,649 冊、洋書 40,743 冊、雑誌 139,555 冊（和雑誌 48,417 冊、洋雑誌 91,138 冊）、継続中の雑誌 831 誌（和雑誌 710 誌、洋雑誌 121 誌）、電子ジャーナル 7,029 誌（国内雑誌 1,573 誌、外国雑誌 5,456 誌）、電子ブック 742 タイトル、視聴覚資料 2,722 点である。（資料 813-1）</li> <li>資料費は、図書 8,695 千円、AV 資料 1,000 千円、雑誌 8,610 千円、電子コンテ</li> </ul>	A

<p>ンツ等 169,755 千円である。(資料 813-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の選定は「獨協医科大学図書館選書方針及び選書基準」に基づき実施している。図書・視聴覚資料については、毎年アンケートを実施して図書館委員会で決定する他に、利用者からのリクエストや新刊情報等のリストを元に司書が選定したものを図書館選書委員会で検討し、購入した資料を図書館委員会に報告している。(資料 813-3)</li> <li>雑誌(電子ジャーナル含む)は3年毎に全学的にアンケートを実施し、利用統計を加味して選定している。雑誌以外にも本学として有効なデータベースを複数導入している。</li> <li>電子ジャーナルの契約タイトル数は、価格の漸増に伴い減少しているが、複数出版社の電子ジャーナルを集めたアグリゲーター系商品を契約することにより補填している。</li> <li>医学部、看護学部、看護専門学校の学生で構成される「樺文庫選書委員会」では、学生委員が樺文庫(小説・闘病記)の選書に携わっており、学生の意見を反映させた選書をおこなっている。</li> </ul> <p>・国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立情報学研究所の「NACSIS-CAT/ILL(目録所在情報サービス)」の利用、さらに料金相殺にも参加し、学術情報の提供及び利用者へのサービス向上を図っている。</li> <li>オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)に加盟し、「JAIRO Cloud(機関リポジトリ環境提供サービス)」を用いて、獨協医科大学リポジトリを運用している。コンテンツ件数は2,351件であり、学位論文の他、学内刊行物である Dokkyo Journal of Medical Sciences、獨協医科大学看護学部紀要および獨協医科大学教育セミナー抄録を公開し、本学の学術成果として、無償で提供している。(資料 813-4)</li> <li>NPO 法人日本医学図書館協会(JMLA)、私立大学図書館協会(JASPUL)、日本病院ライブラリー協会(JHLA)、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)等に加盟している。これにより、電子ジャーナルの共同購入や図書館間相互貸借の円滑な運用を実現するだけでなく、急速に変化する学術情報を入手・共有する機会として活用している。(資料 813-5)</li> <li>栃木県内の病院図書室への支援として、相互貸借(文献複写)を特別料金で提供している。</li> </ul> <p>・学術情報へのアクセスに関する対応</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン・タブレット端末及びモバイル機器の普及に伴うワイヤレス環境への対応として、館内すべての階で無線 LAN が利用可能となっている。また、本学情報基盤センターにおいて「学認(GakuNin)」に参加することにより、</li> </ul>		<p>ンツ等 166,260 千円である。(資料 813-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料の選定は「獨協医科大学図書館選書方針及び選書基準」に基づき実施している。図書・視聴覚資料については、毎年アンケートを実施して図書館委員会で決定する他に、利用者からのリクエストや新刊情報等のリストを元に司書が選定したものを図書館選書委員会で検討し、購入した資料を図書館委員会に報告している。(資料 813-3)</li> <li>雑誌(電子ジャーナル含む)は3年毎に全学的にアンケートを実施し、利用統計を加味して選定している。雑誌以外にも本学として有効なデータベースを複数導入している。</li> <li>電子ジャーナルの契約タイトル数は、価格の漸増に伴い減少しているが、複数出版社の電子ジャーナルを集めたアグリゲーター系商品を契約することにより補填している。</li> <li>医学部、看護学部、看護専門学校の学生で構成される「樺文庫選書委員会」では、学生委員が樺文庫(小説・闘病記)の選書に携わっており、学生の意見を反映させた選書をおこなっている。</li> </ul> <p>・国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国立情報学研究所の「NACSIS-CAT/ILL(目録所在情報サービス)」の利用、さらに料金相殺にも参加し、学術情報の提供及び利用者へのサービス向上を図っている。</li> <li>オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)に加盟し、「JAIRO Cloud(機関リポジトリ環境提供サービス)」を用いて、獨協医科大学リポジトリを運用している。コンテンツ件数は2,191件であり、学位論文の他、学内刊行物である Dokkyo Journal of Medical Sciences、獨協医科大学看護学部紀要および獨協医科大学教育セミナー抄録を公開し、本学の学術成果として、無償で提供している。(資料 813-4)</li> <li>NPO 法人日本医学図書館協会(JMLA)、私立大学図書館協会(JASPUL)、日本病院ライブラリー協会(JHLA)、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)等に加盟している。これにより、電子ジャーナルの共同購入や図書館間相互貸借の円滑な運用を実現するだけでなく、急速に変化する学術情報を入手・共有する機会として活用している。(資料 813-5)</li> <li>栃木県内の病院図書室への支援として、相互貸借(文献複写)を特別料金で提供している。</li> </ul> <p>・学術情報へのアクセスに関する対応</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン・タブレット端末及びモバイル機器の普及に伴うワイヤレス環境への対応として、館内すべての階で無線 LAN が利用可能となっている。また、本学情報基盤センターにおいて「学認(GakuNin)」に参加することにより、</li> </ul>
---	--	---

<p>一部の電子ジャーナルやデータベースが学外からも利用できる環境になっている。(資料 813-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館システム「iLiswave-J 図書館クラウド E.E.」により、館内の図書・雑誌の所蔵確認、閲覧できる電子ブック・電子ジャーナルの検索が可能となっている。今年度はさらに利便性を図るべく、システムサーバーをオンプレミス型からクラウド型に更新した。(資料 813-7)</li> <li>・リンクリゾルバを導入することで、複数のデータベースから電子ジャーナル・OPAC・MyLibrary 機能へアクセスしやすい環境を整備し、文献管理ソフトについても複数利用出来る環境を整えている。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COVID-19 への対応・対策として、図書館に来館せずとも専門情報にアクセスできるよう、電子ブックや動画を導入した。更にアウトリーチサービスとして、導入コンテンツも含めオンライン、オフラインを組み合わせた図書館サービスの提案をしている。また、各種コンテンツの利用案内や教育、研究支援のためのセミナーもオンライン開催で行った上、後日動画配信を行い、利便性を高めている。(資料 813-8～10)</li> </ul> <p>・学生の学習に配慮した図書館利用環境（座席数、開館時間等）の整備達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館は、独立 3 階建て、総面積は 5,895 m<sup>2</sup>、医学部・看護学部・大学院・大学病院・附属看護専門学校が共用しており、本学 3 箇所その他図書室とは、利用者に同等のサービスが提供できるよう運用面でも連携している。当面の目標としては「滞在型の学習図書館」を目指し「明るい雰囲気」「行きたくなる」「居心地が良い」「頼れる」をコンセプトに 3 階の各フロアを静寂度別にエリア分けし、それぞれに見合った閲覧席を設置している。特に椅子については、長時間の滞在に適したキャスター・リクライニング機能が付いた座面の大きいものを導入している。</li> <li>・開館時間は、平日 9:00～22:00、土曜日 9:00～19:00、日曜・祝日・第 3 土曜日 10:00～17:00 である。年末年始などを除き開館しており、コロナ禍の影響を受けた 2020（令和 2）年度を除き、2012（平成 24）年度以降、年間の開館日数は 345 日（約 95%）以上を維持している。(資料 813-11)</li> <li>・閲覧席は各階全てに設置してあり、グループ学習室、個人閲覧室、PC ルーム、AV 室、会議室を含めると 452 席となる。館内全てに無線 LAN が整備されいつでもネットワークに接続できる環境の他、OPAC 専用機（3 台）の他に AD 認証により利用できるパソコンを 85 台（PC ルーム 68 台、検索コーナー 13 台、個人閲覧室 4 台）整備している。館内に個人閲覧室にもパソコン・スキャナー・プリンタを設置し最長 1 週間を通して利用可能であり、効率良い学習と各種情報検索が可能である。また、PC ルームにおいては授業支援ソフトを導入し、オリエンテーション・授業・課外授業、ガイダンス・講習会を実施している。(資料 813-11)</li> <li>・開館時間延長とグループ学習室増設の要望に対応するため、バーチャル上で交流できる場の提供を目指し oVice のトライアルを実施した。アンケート結果</li> </ul>		<p>一部の電子ジャーナルやデータベースが学外からも利用できる環境になっている。(資料 813-6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館システム「iLiswave-J V3」により、館内の図書・雑誌の所蔵確認、閲覧できる電子ブック・電子ジャーナルの検索が可能となっている。(資料 813-7)</li> <li>・リンクリゾルバを導入することで、複数のデータベースから電子ジャーナル・OPAC・MyLibrary 機能へアクセスしやすい環境を整備し、文献管理ソフトについても複数利用出来る環境を整えている。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・COVID-19 への対応・対策として、図書館に来館せずとも専門情報にアクセスできるよう、電子ブックや動画を導入した。また、コロナ禍にて不便を強いられている学生・教職員に向け、各ベンダーが授業支援や研究支援のため各種コンテンツを一時的に無償提供していたが、それらの情報を収集しホームページ上で案内した。更にアウトリーチサービスとして、導入コンテンツも含めオンライン、オフラインを組み合わせた図書館サービスの提案をしている。また、各種コンテンツの利用案内や教育、研究支援のためのセミナーもオンライン開催で行った上、後日動画配信を行い、利便性を高めている。(資料 813-8～10)</li> </ul> <p>・学生の学習に配慮した図書館利用環境（座席数、開館時間等）の整備達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館は、独立 3 階建て、総面積は 5,895m<sup>2</sup>、医学部・看護学部・大学院・大学病院・附属看護専門学校が共用しており、本学 3 箇所その他図書室とは、利用者に同等のサービスが提供できるよう運用面でも連携している。当面の目標としては「滞在型の学習図書館」を目指し「明るい雰囲気」「行きたくなる」「居心地が良い」「頼れる」をコンセプトに 3 階の各フロアを静寂度別にエリア分けし、それぞれに見合った閲覧席を設置している。特に椅子については、長時間の滞在に適したキャスター・リクライニング機能が付いた座面の大きいものを導入している。</li> <li>・開館時間は、平日 9:00～22:00、土曜日 9:00～19:00、日曜・祝日・第 3 土曜日 10:00～17:00 である。年末年始などを除き開館しており、2012（平成 24）年度以降、年間の開館日数は 345 日（約 95%）以上を維持している。(資料 813-11)</li> <li>・閲覧席は各階全てに設置してあり、グループ学習室、個人閲覧室、PC ルーム、AV 室、会議室を含めると 452 席となる。館内全てに無線 LAN が整備されいつでもネットワークに接続できる環境の他、OPAC 専用機（3 台）の他に AD 認証により利用できるパソコンを 85 台（PC ルーム 68 台、検索コーナー 13 台、個人閲覧室 4 台）整備している。館内に個人閲覧室にもパソコン・スキャナー・プリンタを設置し最長 1 週間を通して利用可能であり、効率良い学習と各種情報検索が可能である。また、PC ルームにおいては授業支援ソフトを導入し、オリエンテーション・授業・課外授業、ガイダンス・講習会を実施している。(資料 813-11)</li> </ul>
--	--	--

	<p>が概ね好評だったため、次年度4月より導入する予定である。(資料813-12)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生を中心とした樺文庫選書委員会は、その発足理由が本学の理念に基づくものであり、POP コンテストやインターネット上でのブックハンティングを実施し、年に1度の「樺 News」発行するなど活動している。(資料813-13)</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19 への対応・対策として、館内各所に自由に使える消毒液の設置、座席間の間隔確保、グループ学習室などの部屋の人数制限による密接、密集の回避を促している。更に、試行として、グループ学習室の利用申請を紙からデータ管理とし、接触の軽減と申請時の密集の対策としている。(資料813-14)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学生を中心とした樺文庫選書委員会は、その発足理由が本学の理念に基づくものであり、POP コンテストやインターネット上でのブックハンティングを実施し、年に1度の「樺 News」発行するなど活動している。(資料813-12)</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>COVID-19 への対応・対策として、館内各所に自由に使える消毒液の設置、座席間の間隔確保、グループ学習室などの部屋の人数制限による密接、密集の回避を促している。更に、試行として、グループ学習室の利用申請を紙からデータ管理とし、接触の軽減と申請時の密集の対策としている。(資料813-13)</li> </ul>	
	<p>○図書館サービス、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館に配置されている職員は19名（正職員8名、嘱託職員2名、パートタイム職員9名）である。うち司書資格所持者は10名であり、利用者に対する情報提供や利用指導を実施している。</li> <li>職員研修については、図書館主催の講習会を始め、国立国会図書館遠隔研修や学外の研修会への積極的な参加を奨励している。特に「NPO 法人日本医学図書館協会」が認定する「ヘルスサイエンス情報専門員制度」への認定資格の申請を奨励しており、認定者は5名である。(資料813-15)</li> </ul>	A		<p>○図書館、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館に配置されている職員は19名（正職員9名、嘱託職員1名、パートタイム職員9名）である。うち司書資格所持者は10名であり、利用者に対する情報提供や利用指導を実施している。</li> <li>職員研修については、図書館主催の講習会を始め、国立国会図書館遠隔研修や学外の研修会への積極的な参加を奨励している。特に「NPO 法人日本医学図書館協会」が認定する「ヘルスサイエンス情報専門員制度」への認定資格の申請を奨励しており、認定者は5名である。(資料813-14)</li> </ul>	A
	<p>④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。</p>			<p>④教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。</p>	
814	<p>○研究活動を促進させるための条件の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学としての研究に対する基本的な考えの明示 達成：大学院看護学研究科シラバスに明示し、周知を図っている。</li> <li>研究費の適切な支給 達成：研究費について、大学から職位に応じた個人研究費が一定程度配分されている。(資料814-1)</li> <li>外部資金獲得のための支援 達成：学内において、科研費の獲得を目的として、申請者向けに「科研費獲得セミナー」を開催した。開催にあたっては、科研費公募の時期が前倒しされることから、早めの開催（6月）とした。また、開催形式は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、ハイブリット開催とし、開催後に学内ホームページにて動画を公開した。なお、コロナ禍前の対面開催においては、約150人の受講者数であったが、ハイブリット開催出席者及び延べ動画視聴回数を確認した結果、同程度の受講者数を維持できた。</li> </ul>	B		<p>○研究活動を促進させるための条件の整備</p> <p>814</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学としての研究に対する基本的な考えの明示 達成：大学院看護学研究科シラバスに明示し、周知を図っている。</li> <li>研究費の適切な支給 達成：研究費について、大学から一定程度配分されている。</li> <li>外部資金獲得のための支援 達成：学内において、科研費の獲得を目的として、申請者向けに「科研費獲得セミナー」を開催した。なお、開催形式は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、オンデマンドによるeラーニングとした。(資料814-1)</li> <li>科研費等競争的資金の採択状況を学内だより等で公表し、学内での啓発を促している。</li> <li>学内研究者に、各民間財団からの研究資金応募情報を定期的に案内している。(メール配信システムを使用) (資料814-2)</li> </ul>	B

<p>(資料 814-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費等競争的資金の採択状況を学内だより等で公表し、学内での啓発を促している。</li> <li>・学内研究者に、各民間財団からの研究資金応募情報を定期的に案内している。(研究連携・支援センターURA OFFICE 公式サイト、学内ホームページ及びメール配信システムを使用) (資料 814-3)</li> <li>・公的研究費獲得に伴う「間接経費に係る褒賞制度」を導入している。間接経費を獲得した研究者に研究費を上乗せして支給している。(資料 814-4)</li> <li>・先端医科学統合研究施設に研究連携・支援センターを設置し、外部資金獲得のための申請書類作成等の支援・情報収集に特化した研究戦略部門を設置して令和 2 年 10 月に URA を採用、令和 3 年には、より効率的・有機的な組織へと変更すべく、同センターの組織再編を行い、研究資金獲得の実効性の向上を図った。(資料 814-5)</li> <li>・令和 2 年 6 月に先端医科学統合研究施設研究連携・支援センター 研究推進部門において、臨床研究に関する疫学・統計についての相談体制を整備した。なお、コロナ禍において本体制を整備したことから、Zoom や Skype による相談も可能としている。(資料 814-6)</li> </ul> <p>対応：・看護学部内には、獨協医科大学規程集（令和元年 11 月 1 日）の第 2 編 獨協医科大学第 7 章の 2 看護学部 第 4 節 研究の項目内の獨協医科大学看護学部研究推進委員会規程（平成 19 年 4 月 1 日制定）に定められている（資料 814-7）、看護学部における研究の推進に関する事項を審議するための組織として、看護学部研究推進委員会がある。看護学部研究推進委員会では本学部（大学院を含む）教員の研究活動の支援と推進を目標に活動しており（資料 814-8）、活動内容のひとつに、看護学部共同研究費・研究助成事業があり（資料 814-9）、科学研究費など外部の競争的資金の獲得のためのステップアップするための支援事業を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念期間の保障等</li> <li>・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の教育研究活動を支援する体制</li> </ul> <p>達成：ティーチング・アシスタント（TA）について、規程（資料 814-10（既出 712-4））に基づき、教育研究活動を支援する体制が整備されている。</p> <p>対応：博士課程の開設および研究時間の確保を目的に教員の増員と業務内容の見直しを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン教育を実施する教員からの相談対応、その他技術的な支援体制</li> </ul> <p>→オンライン教育実施のための全学的な相談・対応窓口については、大学院担当の事務員が対応を行っている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端医科学統合研究施設 研究連携・支援センターに、外部資金獲得に特化した研究戦略部門研究資金獲得支援室（URA 支援室）を設置して、令和 2 年 10 月に URA を採用し、研究資金獲得の実効性を図った。(資料 814-3)</li> <li>・令和 2 年 6 月に先端医科学統合研究施設研究連携・支援センター 研究推進部門において、臨床研究に関する疫学・統計についての相談体制を整備した。なお、新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、Zoom や Skype による相談も可能とした。(資料 814-4)</li> </ul> <p>対応：・外部資金獲得に特化した研究戦略部門研究資金獲得支援室（URA 支援室）が組織されたことにより、令和 2 年度には URA の配置には専門職の求人サイトを利用するなどして、URA を採用し、研究資金獲得支援室（URA 支援室）の実効性を図る予定である。(資料 814-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学部内には、獨協医科大学規程集（令和元年 11 月 1 日）の第 2 編 獨協医科大学 第 7 章 学事の第 7 章の 2 看護学部 第 4 節 研究の項目内の獨協医科大学看護学部研究推進委員会規程（平成 19 年 4 月 1 日制定）に定められている（資料 814-5）、看護学部における研究の推進に関する事項を審議するための組織として、看護学部研究推進委員会がある。看護学部研究推進委員会では本学部（大学院を含む）教員の研究活動の支援と推進を目標に活動しており（資料 814-6）、活動内容のひとつに、看護学部共同研究費・研究助成事業があり（資料 814-6～7）、科学研究費など外部の競争的資金の獲得のためのステップアップするための支援事業を行っている。</li> <li>・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念期間の保障等</li> <li>・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の教育研究活動を支援する体制</li> </ul> <p>達成：ティーチング・アシスタント（TA）について、規程（資料 814-8（既出 712-4））に基づき、教育研究活動を支援する体制が整備されている。</p> <p>未達：研究室の整備について、准教授以上に研究個室が準備されているなど、環境的に整備されているが、学部教育が優先され、担当科目も多種に渡り、研究専念時間の確保が厳しい状況も見受けられる。</p> <p>対応：令和 2 年度以降に教員定数および業務内容の見直しを行い、改善に努める。</p>
--	--	--

815	<p>⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。</p> <p>○研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規程の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <p>文部科学省の「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が令和3年2月に改正され、研究機関は令和3年度中に改正ガイドラインに則した公的研究費の管理体制を整備することが求められた。また、同省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づくチェックリストの改訂を受けて、研究不正に関する規程についても改正が必要となった。以上を踏まえ、以下のとおり不正防止関係規程等を制定又は一部改正し、不正防止計画（第5次）として本学ホームページで公表した。（資料815-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 獨協医科大学研究者行動規範：一部改正（資料815-2）</li> <li>・ 獨協医科大学における公的研究費の運営・管理に関する行動規範：制定（資料815-3）</li> <li>・ 獨協医科大学における研究助成金等の運営・管理に関する規程：一部改正（資料815-4）</li> <li>・ 獨協医科大学における研究者の不正行為防止に係る規程：一部改正（資料815-5）</li> </ul> <p>※ 上記の制定・改正日は令和3年10月1日付</p> <p>その他の不正防止関係規程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究者の不正行為防止に関する運用ガイドライン（資料815-6）</li> <li>・ 不正防止計画推進室規程（資料815-7）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員及び学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育及び研究倫理教育の定期的な実施等）</li> <li>・ 文部科学省のガイドラインに基づき、本学では研究者等にコンプライアンス教育及び研究倫理教育の履修を義務付けており、双方の要素を含む研究倫理教材「eAPRIN」を導入し、受講状況を管理している。また、研究者及び公的研究費・学内研究費の運営・管理に関わる者にコンプライアンス教育を実施の上、「研究倫理誓約書」の提出を義務付けている。（資料815-8）</li> <li>・ 学内の研究倫理教育として、「生命倫理講習会」を実施している。なお、新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、オンデマンドによるeラーニングとし、内容確認の設問を添えた「動画視聴報告書」の提出を義務付け、実効性を持たせた。対象者は医学系研究に参画する研究者等であり、コロナ禍前の対面開催時と同程度の受講者数を維持できた。（資料815-9）</li> <li>・ 研究倫理について、学内の看護学部研究科倫理委員会（外部委員3名を含む）（資料815-10）が設置され、規程に準じ厳格に審査されている。特に大学院生に対する倫理審査での倫理委員は、指導的な指摘に努めている。</li> </ul>	A	<p>⑥ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。</p> <p>○研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規程の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <p>研究倫理に関しては、「研究者行動規範」（資料812-1）「事務職員行動規範」（資料812-2）「研究者の不正行為防止に係る規程」（資料812-3）を、不正防止に関しては、「不正防止計画推進室規程」（資料815-1）「研究助成金等の運営・管理に関する規程」（資料815-2）「公的研究費の不正使用防止に向けた取り組み」（資料815-3）を整備、策定している。また、令和元年度に実施された文部科学省による履行状況調査において、事務発注の徹底及び学内ルールの統一を指導されたこと等を踏まえ、令和2年10月に第4次不正防止計画を策定し関係規程を改正した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンプライアンス教育及び研究倫理教育の定期的な実施</li> <li>・ 文部科学省のガイドラインに基づき、本学では研究者等にコンプライアンス教育及び研究倫理教育の履修を義務付けており、双方の要素を含む研究倫理教材「eAPRIN」を導入し、受講状況を管理している。また、研究者及び公的研究費・学内研究費の運営・管理に関わる者にコンプライアンス教育を実施の上、「研究倫理誓約書」の提出を義務付けている。（資料815-4）</li> <li>・ 学内の研究倫理教育として、医学系研究に参画する研究者等に「生命倫理講習会」を開催した。なお、開催形式は、新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、オンデマンドによるeラーニングとし、内容確認の設問を添えた「動画視聴報告書」の提出を義務付け、実効性を持たせた。（資料815-5）</li> <li>・ 研究倫理について、学内の看護学部研究科倫理委員会（外部委員3名を含む）（資料815-6）が設置され、規程に準じ厳格に審査されている。特に大学院生に対する倫理審査での倫理委員は、指導的な指摘に努めている。</li> <li>・ 研究倫理に関する学内審査機関の整備</li> </ul> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学内審査機関を設け、研究者の利益相反を律している。（資料815-7）</li> </ul>	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究倫理に関する学内審査機関の整備</li> </ul> 達成： <ul style="list-style-type: none"> <li>学内審査機関を設け、研究者の利益相反を律している。(資料 815-11)</li> <li>「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の施行を受けて、「獨協医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に関する規程」を制定(令和3年6月1日付)した。(資料 815-12)</li> </ul>					
816	⑨ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。			816	⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
	○適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価 達成： <ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会による定期的な点検・評価について、学部・研究科・助産学専攻科ごとに現状を把握し、それぞれの委員会や教授会で協議・検討されており、最終的には、学長諮問会議の議を経て改善に繋げている。</li> </ul>	A			○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 達成： <ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会による定期的な点検・評価について、学部・研究科・助産学専攻科ごとに現状を把握し、それぞれの委員会や教授会で協議・検討されており、最終的には、学長諮問会議の議を経て改善に繋げている。</li> </ul>	A
	○点検・評価結果に基づく改善・向上 達成： <ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会による点検・評価は、看護学研究科教授会及び学長諮問会議の議を経て改善に繋げている。</li> </ul>	A			○点検・評価結果に基づく改善・向上 達成： <ul style="list-style-type: none"> <li>各委員会による点検・評価は、看護学研究科教授会及び学長諮問会議の議を経て改善に繋げる。</li> </ul>	A

## 2. 根拠資料(名称)

2021(令和3)年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
811	1	獨協医科大学第12次基本計画 <a href="https://intra.dokkyomed.ac.jp/staff/jimu-m_kikaku/kikaku-1953.html">https://intra.dokkyomed.ac.jp/staff/jimu-m_kikaku/kikaku-1953.html</a>
	2	事業計画・予算 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/financial.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/financial.html</a>
	3	令和3年度大学運営に関する基本方針
812	1	獨協医科大学研究者行動規範
	2	獨協医科大学事務職員行動規範
	3	獨協医科大学における研究者の不正行為に係る規程
	4	令和3年度看護学研究科シラバス(既出112-1) <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2021/html5.html#page=1">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmucn-g/schoollife/dmucn-g_syllabus2021/html5.html#page=1</a>
	5	ソーシャルメディア利用に関するガイドライン
813	1	2021年度(令和3年度)図書登録集計
813	2	令和3(2021)年度図書館資料予算(案) (令和2年度第3回(通算第398回)定例図書館委員会資料)

2020(令和2)年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
811	1	獨協学園基本計画
811	2	獨協医科大学予算書 <a href="https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/financial.html">https://www.dokkyomed.ac.jp/dmu/academy/overview/financial.html</a>
811	3	令和2年度大学運営に関する基本方針
812	1	獨協医科大学研究者行動規範
812	2	獨協医科大学事務職員行動規範
812	3	獨協医科大学における研究者の不正行為に係る規程
812	4	令和2年度看護学研究科シラバス(既出112-1)
812	5	ソーシャルメディア利用に関するガイドライン
813	1	2020年度(令和2年度)図書登録集計
813	2	令和2年度図書館資料予算(案) (令和元年度第4回(通算第393回)定例図書館委員会資料)

	3	獨協医科大学図書館選書方針及び選書基準
	4	獨協医科大学リポジトリ <a href="https://dmu.repo.nii.ac.jp/">https://dmu.repo.nii.ac.jp/</a>
	5	特定非営利活動法人日本医学図書館協会－会員館一覧 <a href="http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/jmlalink/index.html">http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/jmlalink/index.html</a> 私立大学図書館協会－加盟図書館名簿 <a href="https://www.jaspul.org/member/">https://www.jaspul.org/member/</a> 日本病院ライブラリー協会 <a href="https://jhla.jp/">https://jhla.jp/</a> 大学図書館コンソーシアム連合－会員館 <a href="https://contents.nii.ac.jp/justice/member">https://contents.nii.ac.jp/justice/member</a>
	6	獨協医科大学図書館－学認とは <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=4458">https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=4458</a>
	7	獨協医科大学図書館 <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/">https://library.dokkyomed.ac.jp/</a>
	8	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 医療従事者向け情報提供 <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/index.php?key=jo1rqnuq1-12573#_12573">https://library.dokkyomed.ac.jp/index.php?key=jo1rqnuq1-12573#_12573</a>
	9	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 図書館に行かなくても利用できるサービス <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6262">https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6262</a>
	10	獨協医科大学図書館－学習・研究支援（講習会） <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/index.php?page_id=5945">https://library.dokkyomed.ac.jp/index.php?page_id=5945</a>
	11	獨協医科大学図書館利用案内 <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/?action=common_download_main&amp;upload_id=1961">https://library.dokkyomed.ac.jp/?action=common_download_main&amp;upload_id=1961</a>
	12	D-Commons 利用結果・アンケート結果 （令和3年度第2回（通算第402回）定例図書館委員会資料）
	13	獨協医科大学図書館－櫻文庫 <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=1341">https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=1341</a>
	14	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 図書館（室）の対応 <a href="https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6009">https://library.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6009</a>
	15	特定非営利活動法人日本医学図書館協会－JMLA 認定資格制度 <a href="http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/nintei/index.html">http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/nintei/index.html</a>
814	1	令和3年度看護学部研究費及び領域別実費予算
	2	科研費獲得セミナーの開催及び動画公開
	3	公募情報（研究連携・支援センターURA OFFICE 公式サイト）
	4	公的研究費の間接経費に係る褒賞制度について
	5	先端医科学統合研究施設研究連携・支援センター規程 （令和3年4月1日改正）
	6	臨床研究に関する疫学・統計についての相談体制の整備

813	3	獨協医科大学図書館選書方針及び選書基準
813	4	獨協医科大学リポジトリ <a href="https://dmu.repo.nii.ac.jp/">https://dmu.repo.nii.ac.jp/</a>
813	5	特定非営利活動法人日本医学図書館協会－会員館一覧 <a href="http://jmla.umin.jp/">http://jmla.umin.jp/</a> 私立大学図書館協会－加盟図書館名簿 <a href="https://www.jaspul.org/index.html">https://www.jaspul.org/index.html</a> 日本病院ライブラリー協会 <a href="https://jhla.jp/">https://jhla.jp/</a> 大学図書館コンソーシアム連合－会員館 <a href="https://www.nii.ac.jp/content/justice/">https://www.nii.ac.jp/content/justice/</a>
813	6	獨協医科大学図書館－学認とは <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=4458">https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=4458</a>
813	7	獨協医科大学図書館 <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/">https://lib.dokkyomed.ac.jp/</a>
813	8	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 医療従事者向け情報提供 <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/index.php?key=jo1rqnuq1-12573#_12573">https://lib.dokkyomed.ac.jp/index.php?key=jo1rqnuq1-12573#_12573</a>
813	9	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 図書館に行かなくても利用できるサービス <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6262">https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6262</a>
813	10	獨協医科大学図書館－学習・研究支援（講習会） <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/index.php?page_id=5945">https://lib.dokkyomed.ac.jp/index.php?page_id=5945</a>
813	11	獨協医科大学図書館利用案内 <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/?action=common_download_main&amp;upload_id=1961">https://lib.dokkyomed.ac.jp/?action=common_download_main&amp;upload_id=1961</a>
813	12	獨協医科大学図書館－櫻文庫 <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=1341">https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=1341</a>
813	13	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連 図書館（室）の対応 <a href="https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6009">https://lib.dokkyomed.ac.jp/?page_id=6009</a>
813	14	特定非営利活動法人日本医学図書館協会－JMLA 認定資格制度 <a href="http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/nintei/index.html">http://plaza.umin.ac.jp/~jmla/nintei/index.html</a>
814	1	科研費獲得セミナーの公開
814	2	研究助成公募のお知らせ
814	3	先端医科学統合研究施設研究連携・支援センター規程
814	4	臨床研究に関する疫学・統計についての相談体制の整備
814	5	獨協医科大学看護学部研究推進委員会規程 平成19年4月1日制定
814	6	令和2年度 年報



看護学研究科自己点検・評価報告書

基準 9 社会連携・社会貢献

1. 自己点検・評価結果（評定）

※自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入。

A：ほぼ完全にできている（90点以上）、B：合格点だが改善の余地あり（60～90点）

C：もう少しで及第点（40～60点）、D：全くできていないか抜本的な改善が必要（0～40点）

2021（令和3）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
911	<p>① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。</p> <p>○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獨協医科大学の建学の精神「患者およびその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医療者を育成する」を教育の基本理念として明示している。</li> <li>・上記の方針に関する不明な点が生じた場合の対応として、オープンキャンパスでの個別相談ブース設置で、大学院教育担当者が説明を実施しているが、令和2年度から新型コロナウイルス感染の蔓延状況の影響により、オンライン（DV）にて対応した。</li> <li>・英語が苦手な看護師のための「英語勉強会」を開催し、波及効果として大学院入試の英語試験への苦手意識を緩和させる意味もあり実施しているが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、自粛した。</li> </ul>	A
912	<p>② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p> <p>○学外組織との適切な連携体制</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の大学院担当教員の他に、学外の大学院担当教員で大学院教育の内容に広がりや深さを担保し、大学院生への効果的な指導のための連携体制を取っている。（資料 912-1（既出 112-1））</li> <li>・2016（平成 28）年 4 月に広く看護の領域を基盤とし、現実的で複合的な地域の健康関連問題などを生きたテーマとし、また、研究者・教員の日頃の研究成果を広く地域に提供・検証することによって、21 世紀の新たな健康問題への解決策を地域と大学がともに創造し、ともに学生を育てていくことを目的として、地域共創看護教育センター（看護学部・大学院看護学研究科・助産学専攻科）が設置された。活動内容は、子どもから高齢者を対象とした地域看護の実践活動に加え、医療知識や技術の普及など地域健康支援活動も開催されてい</li> </ul>	A

2020（令和2）年度		
項目 No.	点検・評価項目 評価の視点	自己評価
911	<p>①大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。</p> <p>○大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・獨協医科大学の建学の精神「患者およびその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医療者を育成する」を教育の基本理念として明示している。</li> <li>・上記の方針に関する不明な点が生じた場合の対応として、オープンキャンパスでの個別相談ブース設置で、大学院教育担当者が説明を実施しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染の蔓延状況の影響により、オンライン（DV）にて対応した。</li> <li>・英語が苦手な看護師のための「英語勉強会」を開催し、波及効果として大学院入試の英語試験への苦手意識を緩和させる意味もあり実施しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、自粛した。</li> </ul>	A
912	<p>②社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。</p> <p>○学外組織との適切な連携体制</p> <p>達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の大学院担当教員の他に、学外の大学院担当教員で大学院教育の内容に広がりや深さを担保し、大学院生への効果的な指導のための連携体制を取っている。シラバス（資料 912-1（既出 112-1））</li> <li>・2016（平成 28）年 4 月に広く看護の領域を基盤とし、現実的で複合的な地域の健康関連問題などを生きたテーマとし、また、研究者・教員の日頃の研究成果を広く地域に提供・検証することによって、21 世紀の新たな健康問題への解決策を地域と大学がともに創造し、ともに学生を育てていくことを目的として、地域共創看護教育センター（看護学部・大学院看護学研究科・助産学専攻科）が設置された。活動内容は、子どもから高齢者を対象とした地域看護の実践活動に加え、医療知識や技術の普及など地域健康支援活動も開催されてい</li> </ul>	A

<p>る。さらに、看護職者のリカレント教育にも取り組み、専門家による研修会や勉強会、研究支援活動なども行っている。令和3年度は、新型コロナウイルス感染状況から、活発な行動は自粛した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象に、「開かれた大学」すなわち地域社会への貢献を基本とし、医学医療に関する専門的知識・技術の提供など日常生活に役立つ講座「獨協医科大学公開講座」を実施しており、看護学部大学院教員を派遣している。</li> <li>・2013(平成25)年に壬生町からの要請もあり、「町民の健康、医学・医療の発展」をテーマに連携を図り、積極的に地域社会に貢献していくことを目的に「みぶまち・獨協健康大学」を開設し、講師として大学院教員を派遣している。また、各団体、組織、行政に向けた出前授業や研修会・講演会など学外活動・社会活動も多く行なっている。</li> </ul>	
<p>○社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進 達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域ごと実施している研究教育活動については、年報で報告している。領域の特性を生かした社会貢献にも積極的に取り組んでいる。</li> <li>・CNSコースにおいては、修了生、臨床看護師、大学院生、教員により困難事例について定期的に事例検討会を実施している。課題解決能力の向上、CNSとしての役割を考察し、学生、修了生の実践能力の向上と発展に努めている。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で学修している院生の多くは、臨床で働きながら学んでいる方が多いため、現場の問題が研究課題となることが多い。臨床現場に基づいた課題は、現場へ還元され社会貢献活動に活用されているため、成果が現場に還元されるよう、今後も研究成果の公表を支援していく。</li> <li>・令和4年度以降も運営委員会で客観的な評価方法について検討していく。</li> </ul>	B
<p>○地域交流、国際交流事業への参加 達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流については、「みぶまち・獨協健康大学」「獨協医科大学公開講座」に大学院担当教員を派遣している。また、地域共創看護教育センター事業として(子育て支援、医療・看護支援、ボランティア活動(学生含む)の推進)などの地域と連携し活動している。</li> <li>・地域共創看護教育センターの事業として、本学大学院の教員は、日本に住む外国人の父母と子の支援と、居場所の提供を目的に「Mum &amp; Dad Café」を開催している。日本と異なる文化背景で育ち日本で子育てをする方々やその配偶者の経験したことを、当事者同士が共有し、より良い子育て情報の獲得や、同じような境遇を持つ方々のネットワークを広げ、地域社会で生活する上での自助や共助につなげている。また、ボランティアで参加する学生は、子育てをする家族の理解や、子供との遊びを通して、対象者理解の視野を広げる機会となっている。</li> </ul> <p>対応：各々の事業評価を行っていくとともに、本大学が地域のニーズを満たす役割が果たしているか、定期的に検討している。</p>	A

<p>る。さらに、看護職者のリカレント教育にも取り組み、専門家による研修会や勉強会、研究支援活動なども行っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染状況から、活発な行動は自粛した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象に、「開かれた大学」すなわち地域社会への貢献を基本とし、医学医療に関する専門的知識・技術の提供など日常生活に役立つ講座「獨協医科大学公開講座」を実施しており、看護学部大学院教員を派遣している。</li> <li>・2013(平成25)年に壬生町からの要請もあり、「町民の健康、医学・医療の発展」をテーマに連携を図り、積極的に地域社会に貢献していくことを目的に「みぶまち・獨協健康大学」を開設し、講師として大学院教員を派遣している。また、各団体、組織、行政に向けた出前授業や研修会・講演会など学外活動・社会活動も多く行なっている。</li> </ul>	
<p>○社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進 達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・領域ごと実施している研究教育活動については、年報で報告している。領域の特性を生かした社会貢献にも積極的に取り組んでいる。</li> <li>・CNSコースにおいては、修了生、臨床看護師、大学院生、教員により困難事例について定期的に事例検討会を実施している。課題解決能力の向上、CNSとしての役割を考察し、学生、修了生の実践能力の向上と発展に努めている。</li> </ul> <p>未達：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学で学修している院生の多くは、働きながら学んでいる方が多いので、院生が学修した成果は、現場へ波及することが予測される。それを客観的に評価していく必要があるため、今後の課題とする。</li> </ul> <p>対応：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度以降に教学委員会で客観的な評価方法について検討していく。</li> </ul>	C
<p>○地域交流、国際交流事業への参加 達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流については、「みぶまち・獨協健康大学」「獨協医科大学公開講座」に大学院担当教員を派遣している。また、地域共創看護教育センター事業として(子育て支援、医療・看護支援、ボランティア活動(学生含む)の推進)などの地域と連携し活動している。</li> <li>・地域共創看護教育センターの事業として、本学大学院の教員は、日本に住む外国人の父母と子の支援と、居場所の提供を目的に「Mum &amp; Dad Café」を開催している。日本と異なる文化背景で育ち日本で子育てをする方々やその配偶者の経験したことを、当事者同士が共有し、より良い子育て情報の獲得や、同じような境遇を持つ方々のネットワークを広げ、地域社会で生活する上での自助や共助につなげている。また、ボランティアで参加する学生は、子育てをする家族の理解や、子供との遊びを通して、対象者理解の視野を広げる機会となっている。</li> </ul> <p>課題：各々の事業評価を行っていくとともに、本大学が地域のニーズを満たす役割が果たしているか、定期的に検討していく必要がある。</p>	A

913	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	B
	○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価 達成： ・地域との連携や社会貢献を目的に地域共創看護教育センターが設置されており、活動内容は年度末の報告会で情報を共有し、同時に点検・評価に繋がっている。 ・地域共創看護教育センターの活動は年報として毎年作成し、活動内容及び活動結果を踏まえ、点検と評価を行い、次年度の改善事項としている。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、活発な活動は自粛した。令和3年もコロナ感染状況を踏まえ、活発な活動は自粛している。 未達： ・社会連携・社会貢献の適切性について、定期的な点検・評価が必要である。 対応： ・新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、令和4年度以降に定期的な点検・評価を強化する。	
	○点検・評価結果に基づく改善・向上 未達： ・大学の建学の精神、教育理念に基づき、大学全体の社会連携・社会貢献の方針（教育・医療福祉・研究・国際交流など）を定め、それに基づき大学院での方針についても検討していく必要がある。 対応： ・大学全体の課題と捉え、令和2年度以降に教学委員会で社会連携・社会貢献の強化を図るとともに定期的な点検・評価・改善に努める。 ・大学院研究科教学委員会で点検・評価を行い、改善事項は順次対応し改善に努めた。	B

913	③社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	B
	○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価 達成： ・地域との連携や社会貢献を目的に地域共創看護教育センターが設置されており、活動内容は年度末の報告会で情報を共有し、同時に点検・評価に繋がっている。 ・地域共創看護教育センターの活動は年報として毎年作成し、活動内容及び活動結果を踏まえ、点検と評価を行い、次年度の改善事項としている。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、活発な活動は自粛した。 未達： ・社会連携・社会貢献の適切性について、定期的な点検・評価が必要である。 対応： ・新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、令和3年度以降に定期的な点検・評価を強化する。	
	○点検・評価結果に基づく改善・向上 未達： ・大学の建学の精神、教育理念に基づき、大学全体の社会連携・社会貢献の方針（教育・医療福祉・研究・国際交流など）を定め、それに基づき大学院での方針についても検討していく必要がある。 対応： ・大学全体の課題と捉え、令和2年度以降に教学委員会で社会連携・社会貢献の強化を図るとともに定期的な点検・評価・改善に努める。 ・大学院研究科教学委員会で点検・評価を行い、改善事項は順次対応し改善に努めた。 根拠資料：大学院研究科教学委員会議事録（R3.2.3開催）（資料913-1）	B

2. 根拠資料（名称）

2021（令和3）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
912	1	令和3年度看護学研究科シラバス（既出112-1）

2020（令和2）年度		
項目No.	資料番号	根拠資料の名称
911	1	令和2年度看護学研究科シラバス（既出112-1）
913	1	大学院看護学研究科教学委員会議事録（令和3年2月3日開催）